

◆Ⅱ章 特別支援学級の教育課程◆

1 個別の指導計画の作成と活用

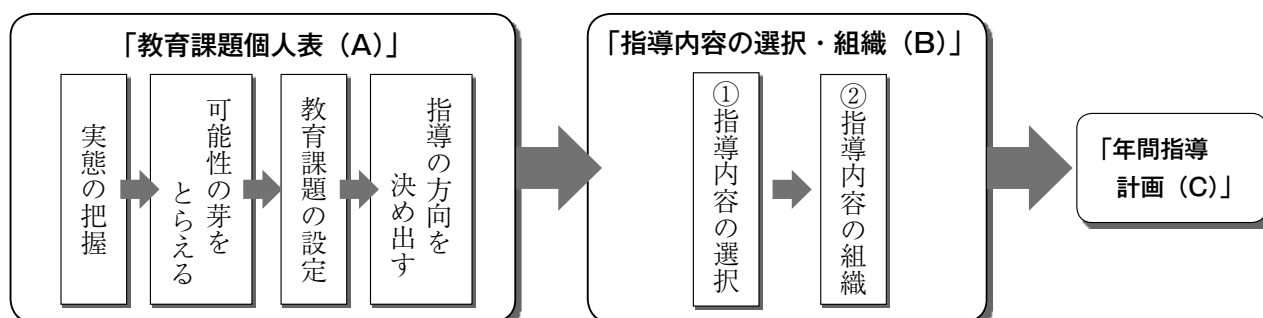
(1) 個別の指導計画の作成

長野県では、これまでも特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人の全人的な発達を目指して教育実践がなされる必要があるという立場で、「個別の指導計画」を作成、活用してきている。「個別の指導計画」とは、児童生徒の実態を肯定的・共感的にとらえ、本人・保護者・担任それぞれの願いを集約し、具体的な指導目標・指導内容・指導方法を明確にした計画表である。長野県では、これらを「教育課題個人表 (A)」「指導内容の選択・組織 (B)」「年間指導計画 (C)」にまとめ、三つをセットとして「個別の指導計画」としている。自立活動についても、従前と同様「個別の指導計画」の中に入れて作成する。

① 個別の指導計画作成の手順

次ページより、「教育課題個人表 (A)」「指導内容の選択・組織 (B)」「年間指導計画 (C)」それぞれの形式例を挙げた。この形式はあくまでも例であり、児童生徒を肯定的・共感的にとらえ、興味や意欲をもって自主的・主体的に学習活動に取り組み、成就感を味わうとともに、自己を肯定的にとらえることができるような指導がなされることが大切である。

個別の指導計画は、次のような手順で作成していく。



② 個別の指導計画の活用にあたっての留意事項

- ア 日々の授業に生かす……個別の指導計画は作成して終わるのではなく、日々の授業に生かし、児童生徒の成長や変化を評価して、加筆・修正していく。
- イ 児童生徒にかかわる人々に周知して、共通理解し、連携を図る。
 - a 保護者と共通理解し、連携を図る……節目毎に保護者の願いを聞き、教育課題や指導内容、指導方法に反映させることが大切である。また、個別の指導計画をもとに、保護者と担任で児童生徒の実態や指導の方向について共通理解を図り、家庭と学校とで互いに歩調を合わせたり役割分担したりして指導に当たるようにする。尚、個人情報については取り扱いに十分配慮し、守秘義務を守ることが大切である。
 - b 関係職員間で共通理解し、連携を図る……小・中学校の中では、作成した個別の指導計画を、特別支援学級担任のみならず、通常の学級担任、教科担任、養護教諭等、児童生徒とかかわる職員の中で共有することが大切である。個別の指導計画の内容を共通理解し、互いに歩調を合わせたり役割分担したりして指導・支援に当たることで、児童生徒の学校生活をより有意義なものとするができる。
 - c 関係機関との連携を図る……医療機関を受診して得た診断やアドバイス、専門機関の教育相談を受けて得たアドバイス等を折々に加味し、加筆・修正して指導に生かしていく。

「教育課題個人表(A)」の形式(例)

年 氏名

(男・女)

生育歴・諸検査・連携の記録など

生育歴：就学前，家庭や保育所等でどのように育ってきたかについて可能な限り記入する。

家庭環境：その子の育ちに影響を及ぼしていると思われることについて記入する。

諸検査の記録：単に結果の数値だけではなく，そこから読みとれるものを記入する。(WISC:言語性優位 or 動作性優位，K-ABC: 継次処理優位 or 同時処理優位等)あくまでその子の一面として把握し，とらわれすぎないようにする。

医学的所見：その子の障害の状況や程度等を記入するが，障害名で固定的な見方をしないように配慮する。医師の所見等で日常留意しなければならないことがあれば記入する。

専門機関との連携：専門機関からのアドバイスも記入する。

※諸検査の実施年月日や医療・専門機関の受診年月日があると経過が分かってよい。

日常生活の姿

・「目当て・見通し」「自己決定」「基本的な生活習慣」等，児童生徒の実態によせた観点を意識しながら，その子にとって特徴的と思われる観点到重点をかけて記入する。

・単に「する」「しない」という行動のみを記入するのではなく，その時の状況や条件を併せて記入する。

・否定的・マイナス的にとらえるのではなく，できる限り肯定的・共感的にとらえるようにする。

・可能性の芽につながるようなものについては，その子の行動や姿の裏付けになりそうなものを視点にして記入する。

☆ 自立活動の6つの内容の区分，26 の項目を視点に意識しながら実態把握する。

可能性の芽

- ・よいところ，得意なこと，伸びてきているところ等のプラス面を記入する。
- ・こうすれば・・・できる，このような条件でできる等，できるための条件や状況，必要な支援情報を記入する。

願 い

【本人の願い】

- ・本人から聞くことができない場合には，予測して記入してもよい。

【保護者の願い】

【担任の願い】

【将来の姿】

- ・単なる予想的なことではなく，本人・保護者・担任の願いを踏まえて，どのような社会的自立の姿を目指しているかを記入する。

教育課題

- ・将来の自立に向けて，本質的な観点到立って今伸ばしていきたい面を，可能性の芽を踏まえながらおよそ1年後をを展望した課題を設定する。

- ・児童生徒が意欲的にかかわる視点をもって教育課題を設定する。

☆ 自立活動については，以下のように，該当する二つ以上の項目が分かるように記述する。

[区分名(項目番号)] [区分名(項目番号)]

指導の方向

- ・教育課題を踏まえて，指導・支援の方向性を具体的に記述する。その際，可能性の芽に記されている，できるための条件を生かしながら，具体的な場面や指導・支援の方法等について記入する。

- ・その子が，自分の力で達成していけるように，また，自主的・自立的な学習となるために，いわゆる「できる状況づくり」を大切に考え，指導の方向を導き出す。

※ PDCA サイクル(P = Plan = 指導計画を立てる，D = Do = 実践する，C = Check = 評価する，A = Action = 検証し，改善する)により，実効性のあるよりよい個別の指導計画としていくことが大切である。

「指導内容の選択（B—①）」（例）

年 氏名

※小学校知的障害特別支援学級の場合

各教科等	指導内容
国語	・自分の名前を平仮名で書く。〈小2—24〉 ・教師からの簡単な指示を聞き取り、それに沿って行動する。〈小3—5〉 ・友だちと一緒に簡単な劇などをする。〈小3—13〉
社会 (生活)	・いろいろな店で売っている品物の名前が言える。〈小・生活3—11—2〉 ・教師と一緒にバスを利用し乗降りの時に料金を支払う体験をする。〈小・生活1—12—2〉
算数	・簡単な加法・減法を用いる場合や意味が分かり初歩的な計算をする。〈小3—2〉 ・円・三角形・正方形が分かり、それらを書く。〈小3—6〉
理科 (生活)	・学習指導要領に示されている各教科の内容を基に、その子の障害の状態や発達の状況を踏まえ、教科毎に指導内容を選択する。そして、取り扱いの順序や重点の掛け方を加味して、具体的・項目的に記入する。 ・知的障害特別支援学級の場合は、共通・連携編Ⅴ章資料編(1)知的障害特別支援学校 各教科目標及び内容・具体的内容等を参考に決め出すことができる。その場合、上記のように〈小◎—〇〉〈中◎—〇〉と表記するとよい。
音楽	
図画工作	
体育	自立活動の具体的な指導内容設定の手順 <pre> graph LR A[実態を把握し、整理する。] --> B[指導目標の設定] B --> C[指導目標達成のために必要な項目の選定を6区分26項目から行う。] C --> D[選定された項目を関連づけて、具体的な指導内容を設定する。] </pre>
家庭	
道徳	
特別活動	
外国語活動	
自立活動	・「教育課題個人表(A)」の中の「日常生活の姿」や「教育課題」の流れを受けて、6区分・26項目の中から選定した必要な項目を、相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する。 ・文末に選定した区分名と項目番号を〔コミュニケーション(1)〕のように付記すること。
総合的な学習の時間	・総合的な学習の時間は、目標や指導内容は示されていないので、活動内容を記入する。

※ 中学校特別支援学級の各教科等については、「個別の指導計画の活用」(P.13～20)の事例を参照のこと。

指導内容

知的障害特別支援学校 各教科目標及び内容・具体的内容 → 共通・連携編 P.89～

自立活動について → 特別支援学校編 P.115～

「指導内容の組織（Ｂ―②）」（例） 年 氏名 ※小学校知的障害特別支援学級の場合

指導の形態	指導場面	具体的指導内容	評価
各教科等 を 合 わ せ た 指 導	日常生活の指導	・当番の日には、自分の名前を黒板に平仮名で書く。 指導内容の選択（Ｂ―①）で記した内容を指導するのに適した指導場を挙げて、具体的な指導内容を表記する。	
	生活単元学習 （遊びの指導） （作業学習）		
各教科等 の 指 導	音楽、体育 等 必要な教科	通常の学級の児童生徒と共に行う場合は、「交流及び共同学習」として位置づける。	
	道 徳		
	特別活動		
	総合的な学習の 時間		
	（自立活動）	自立活動が日課表に位置付いている場合は記述するが、学習活動全体の中で配慮して指導している場合は指導場面の中に併せて記すことが望ましい。	

※この表の評価部分に具体的な育ちの姿を記入して、通知票として活用することもできる。

「年間指導計画（Ｃ）」（例） 年 氏名 ※必要に応じて、A4横判で作成するとよい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式 1年生を迎える会	保健 検診 等	校外学習 キャンプ	音楽会 交流会	夏休み 水泳記 録会	運動会	遠足	社会 見学		新年会	学習発 表会	6年生 を送る会 終業式 卒業式
生活 単元 学習	音楽会でオペレッタを発表しよう ⇔					年末年始を楽しもう ⇔						
	運動会に招待しよう ⇔					学習発表会で劇の発表をしよう ⇔						
	歓迎会をしよう ⇔					社会見学・まとめ ⇔						
	野菜を育てよう・収穫しよう ⇔					6年生に感謝しよう ⇔						
						焼き芋交流会/お菓子づくり ⇔						
国語	平仮名のなぞり書き練習					・年間指導計画は概略を示し、計画の詳細については必要に応じて単元等の指導計画で作成する。 ・各教科等を合わせた指導をしている場合には、生活単元学習・日常生活の指導・遊びの指導等を記入する。各教科等の指導をしている場合には、教科名や領域名を記入する。						
算数	計算練習(1桁の計算:加法減法), 形の弁別											
自立活動	↑ 自立活動の時間が日課表の中に位置付いている場合は実線で仕切るが、学習活動全体を通して配慮して指導している場合は二重線で仕切る。 ・区分と項目が分かるように、文末に[区分名(項目番号)]を示す。											

※基本的には個別に年間計画を作成する。学級の人数が少ない場合には1枚にまとめてもよい。

Ⅱ 章

(2) 個別の指導計画の活用

個別の指導計画で設定した教育課題・指導の方向・指導内容の選択・組織，年間指導計画は，日々の学習活動に生かしていくことが大切である。

本項では，中学校知的障害特別支援学級の生活単元学習の実践事例を基に，個別の指導計画を活用した学習指導案の作成手順を紹介する。

① 個別の指導計画

「教育課題個人表（A）」

1年 氏名 カナコ

生育歴・諸検査

連携の記録など

○N小学校特別支援学級卒業

○家庭環境

家族全員がカナコさんにあたたかく接している。カナコさんも家族を頼りにしている。授業参観にはほぼ毎回参加している。

○家族構成

父，母，長男（N高3年），次男（S高1年）

○諸検査

WISC-Ⅲ全IQ〇〇言語性IQ
〇〇動作性IQ〇〇(H〇.実施)
知的発達の遅れが見られる
教研式知能検査ISS〇〇

日常生活の姿

【見通し】

- ・「5時間目は1年の教室に行くの」と，繰り返し担任に尋ねる。担任が「そうだよ」と答えるとうなずく。
- ・予定黒板に「2時間目…手紙を書こう」と書いてあったのを見て，担任に「手紙セット持ってきていい」と尋ねる。
- ・プレゼント用のクッキーにチョコペンで文字を書く。担任が「やりたい人」と聞くと黙っている。担任が「お」の字を書くのをじっと見ている。担任が「続きを書いてみますか」と尋ねると，「失敗する」と言いながらゆっくりと書き始める。担任とクラスメートのサトミさんが「じょうず」と言うと，にっこり笑い，残りの文字を書く。

【主体性】

- ・担任が「明日はカナコさんが家で作ったというカップケーキをみんなで作ろう」と言うと，翌日作り方を紙に書いてくる。

【人とのかかわり】

- ・冗談を言ったときに担任が聞き逃すと「ちゃんとつつこんでよ」と要求する。
- ・金魚の水槽の机を揺らしたサトミさんに「金魚たちが驚いちゃうよ」と言う。
- ・団子の作り方を教えてくれた地域の方に，どうしたら同じ大きさの団子を作ることができるのかを，自分で書いた文章を見ながら，ゆっくり大きな声で質問する。

可能性の芽

- ・大人（担任・保護者）に繰り返し確認したり大人の姿を見たりして，見通しのもてた活動には自ら取り組む。
- ・文字や言葉による情報があると先の見通しをもち，必要な物を自分で用意することができるだろう。
- ・一度うまくできて，担任や特別支援学級のクラスメートから称賛された活動には自ら取り組むことが多い。
- ・家族・担任・特別支援学級のクラスメート・いっしょに活動したことの大人などに対しては，やりたいことや分からないことについて直接言葉で伝えたり，文章に書いて読んで伝えたりする。

願 い

【本人の願い】見通しをもって活動したい。自分のペースで，親しい友だちや先生と一緒に活動したい。毎日の学習や部活動をがんばりたい。

【保護者の願い】少しずつでいいので，人とのかかわり（特に同学年の友だち）が広がってほしい。

【教師の願い】自分で考えて判断して行動する力が伸びてほしい。自分の思いを語れるような人間関係の輪を広げてほしい。

【卒業後の姿】

- ・N特別支援学校高等部かS特別支援学校高等部に進学し，一人で電車やバスなどを使って登校する。
- ・陸上競技や卓球などのスポーツを通して，様々な人とのかかわりを広げていく。
- ・休日はバスや電車を利用して友だちと外出し，買い物をしたり公共施設を利用したりして楽しむ。

教育課題

- ・複数の工程がある活動に取り組む際，自分で工程表を作成し，それを手がかりに一人で区切りまで活動することができる。

☆質問や感想，伝えたいことなどを初対面の大人や通常の学級の友だちに向けて文章に書いて読んだり，直接言葉で伝えたりすることができる。

[人間関係の形成(1)]

[コミュニケーション(5)]

指導の方向

- ・カナコさんが活動に見通しをもてず迷ったときに，自分で確認できるような手順表や段階見本をカナコさんと一緒に用意する。
- ・カナコさんが自ら活動に取り組む，見通しを持って行動する，新しいことにチャレンジする，課題をクリアするなどしたときには，その場で称賛する。
- ・活動の中で，カナコさんの必要感に応じて新しい大人との出会いの場を設定していく。
- ・活動のはじめは，カナコさんがいつでも質問ができる位置に担任が立つ。徐々に距離を離したり，見本を見るように声がけしたりする。

各教科等	指 導 内 容
国語	・ 簡単なメモをとりながら指示や説明を聞く。〈中－４〉 ・ 必要なときには、丁寧な言葉を使ったり、適切な言葉を使ったりする。〈中－11〉 ・ 簡単な手紙文や日記，連絡文などを書く。〈中－21〉 ・ コンピュータによる文書作成に興味をもつ。〈中－25〉
社会	・ 郵便局の役割や仕組みを知り，郵便物にかかわる利用をする。〈中－15〉 ・ 身近な人が就いている職業を中心に，主な職業とその内容を知る。〈中－23〉 ・ 絵地図や公共交通の路線図を見て位置を知る。〈中－29〉
数学	・ 初歩的な乗法・除法が分かり，やさしい計算をする。〈中－３〉 ・ 長さ重さ容積を表す単位が分かり，ものさしやはかりの扱いに慣れる。〈中－５〉 ・ 買い物をし，お釣りの支払いに必要な簡単なお金の計算をする。〈中－13〉
理科	・ 身近にいる主な動物の習性や特徴に関心をもつ。〈中－９〉 ・ 身近にある主な植物の名称や特徴に関心をもつ。〈中－８〉
音楽	・ 通常の学級で活動する。
美術	・ 通常の学級で活動する。
保健体育	・ 通常の学級で活動する。
技術家庭	・ 通常の学級で活動する。
道徳	・ 通常の学級で活動する。
外国語	・ 英語を話す人と交流し英語を聞いて楽しむ。〈中－３〉 ・ あいさつをしたり，身近な物品の名称，簡単な動作を表す言葉を英語で言ったりする（あいさつ，自分の名前，立つ，座るなど）。〈中－８〉
特別活動	・ 通常の学級で活動する。
自立活動	・ 地域の大人や通常の学級の友だちに対して，あいさつや聞く姿勢など，その場に応じた対応ができる。 [コミュニケーション（５）] [人間関係の形成（１）]
総合的な学習の時間	・ 通常の学級で活動する。

「指導内容の組織（Ｂ）－②」

1年 氏名 カナコ

指導の形態	指導場面	具体的指導内容	評価
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	・自分の担当場所に行き，ほうき，雑巾，机運びなどの活動を友だちと分担し合って行う。	
	生活単元学習	・かかわった地域の方々に自分の気持ちを手紙や言葉で伝える。 ・新しい団子のレシピを自分で作り活用する。 ・いろいろな種類の団子を自分の力で作れるようになる。 ・自分達が学習してきたことをまとめて発表する。 ・のれんや，旗など団子屋さんに必要な物を作る。	
各教科等の指導	国語	・お世話になった地域の人や，小学校の友だちに手紙を書く。 ・調べ学習をするときに丁寧な言葉でお店の人に質問する。 ・お店の人の説明を簡単なメモを取りながら聞く。 ・コンピュータを使って団子屋さんのチラシを作成する。	
	数学	・はかりや計量カップを使ってレシピに書いてある量の粉や水を計測することができる。 ・必要な食材をスーパーに買いに行く。計算機を使って購入品の合計金額を計算し，必要なお金を財布から出すことができる。 ・毎日初歩的な乗法・除法の計算練習を短時間行う。	
	理科	・金魚の世話をしながら，金魚とその幼魚の様子を観察する。 ・教室に飾ってある花の水やりや植え替えをする。	
	音楽	・通常の学級	
	美術	・通常の学級	
	保健体育	・通常の学級	
	技術家庭	・通常の学級	
	道徳	・通常の学級	
	英語	・ALTと英語を使ったゲームをしたり，英語の歌をうたったりする。英語を書いたり，発音したりできる単語の数が増える。 ・身近な英単語を毎日短時間読んだり書いたりして覚える。	
	特別活動	・通常の学級	
	総合的な学習の時間	・通常の学級	

「年間指導計画（C表）」

1年 氏名 カナコ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式 対面式	保健検診 縄跳大会	キャンプ	陸上大会 バレーCM	夏休み	陸上新人 大会	文化祭	作品展	百人一首 大会	新年会	音楽会	バスケCM 卒業式
生活単元学習	◇学級開きの 会をしよう	◇○○先生に結婚 のプレゼントを 贈ろう	◇キャンプ	◇ジョッキ作り を教えてくれ た□□先生を 招待してパー ティーをしよう	◇交流会を やろう	◇交流相手に 案内状を書く	◇スマイル組団子屋さんを やろう	◇出張団子屋さんを やろう	◇出張団子屋さんを やろう	◇お別れ旅行に行こう		
国語	◇自己紹介カードを書く	◇キャンプの まとめを書く	◇交流相手に 案内状を書く	◇習字	◇文化祭の 感想文を書く	◇百人一首	◇かかわった 地域の方に 手紙を書く	◇1年を振り 返っての作 文を書く				
数学	◇計算練習（簡単な乗法・除法を中心に）（通年）	◇簡単な文章問題練習（通年）	◇買い物学習（通年）	◇調理するときの計量（通年）	◇模擬貨幣を使ったお金の支払い方法の練習（販売活動の前後）							
英語	◇単語の書き取りと発音（通年）	◇ALTとカードを使った英語のゲーム（ALTが来校するとき）										
理科	◇植物の観察	◇手作りサイダー	◇音の実験	◇電気ペン作り	◇太陽の観察	◇糸電話を使った音の実験						
その他	◇音楽、美術、保健体育、道徳、特別活動、総合的な学習の時間は通常の学級の生徒と一緒に同じ内容の学習を行う。											
自立活動	◇お世話になった地域の方や友だちに言葉で自分の思いを伝えたり、友だちと役割を分担し、協力して調理活動や制作活動に取り組みんだりする。											

② 生活単元学習指導案

1 単元名 「スマイル組だんご屋さんをオープンして、
いろんな人に食べてもらおう」(生活単元学習)

学習の目当てやテーマを端的な言葉で示す。

2 単元設定の理由

スマイル組(特別支援学級の名前)は1年女子のカナコさんと2年女子のサトミさん二名の学級である。1学期は、緊張し合ってなかなかかかわりの持てない二人だったが、活動を通して徐々に仲良くなってきた。

【学習の発端】

単元の醸成期間①
児童生徒の興味関心から活動を決めだす。個別の指導計画の「可能性の芽」を意識する。

2学期、N小学校特別支援学級の友だちを招待して交流会をすることになった。相談の結果、1学期の学習で何回か作ったお団子を小学生に教えながら作ることに決まった。交流会当日、小学生に「おいしい。」と言われにこにこ笑う。

次の週、交流会の写真を見ながら活動を振り返る。その中で先生方から、「団子屋をやってみたら」とか「他の団子も作ってみたら」というアドバイスをいただいたことを思い出し「スマイル組のだんご屋さんをやろう。」と決まった。

【興味関心の広がり】

単元の醸成期間②
集団としての目標意識が芽生えていく様子。

「作った団子を誰に食べてもらおうか。」との問いに、「先生方、家族」と答えるサトミさん。カナコさんは、「いつかチエミちゃん(入院中のカナコさんと同じクラスの友だち)に食べさせてあげたい。」と答えた。また、新作団子の味を決めるために、市内の団子屋さんを見学することになり、担任にタウンページの使い方を教わりながら団子屋さんの住所や電話番号を調べ始めた。

【意欲の高まりと活動の始まり】

単元の醸成期間③
生徒が活動に見通しを持ち、主体的に動き始める様子を書く。

団子作りは、1学期からの継続の活動であり、調理活動の好きな二人にとっては見通しが持ちやすく意欲的に取り組むことが予想される活動である。また今回は新しい味に挑戦するという点で二人にとって新鮮な活動であると同時に適度な作業工程の難しさもある。繰り返し作中で楽しみながら上達を実感し達成感を味わうことができる。また、市内の団子屋さんの見学を通して、外部の方とかかわりを持つこともできる。更に、団子屋のオープンに向けて、制作活動、広報活動、販売活動など様々な体験を通した学習展開が期待でき、二人の生徒の教育課題達成につながると考える。

【教育的意義】

教師のこの活動に対する教育的な価値付け。個別の指導計画「教育課題」を意識して書く。

こうして、新しい種類のお団子を作れるようになってスマイル組の団子屋さんをオープンし、先生や友だちに食べて欲しいという目当てが生徒たちに据わり、単元がスタートした。

3 単元の目標

【全体の目標】

- ・本単元の活動にかかわる多くの方に、自分の気持ちを手紙に書いたり、直接言葉で伝えたりする。
- ・お店の見学をして団子屋マップを制作する。
- ・種類の違う団子を手順に沿って作ることができるようになる。
- ・自分たちが学習してきたことをまとめて発表する。

- ・のれんや、旗など団子屋さんに必要な物を作る。

【個人の目標】

(カナコさん)

- ・新しい団子のレシピを自分で作り、活用しながら教師に確認しないで一人で作れるようになる。

- ・かかわった地域の方々に自分の気持ちを手紙や言葉で伝える。

(サトミさん)

- ・同世代の友だちに、自分で作ったお団子を手渡すことができる。

- ・注文票を見ながら、種類ごとの団子の数を集計して必要な数の団子を用意する。

個別の指導計画で示した「教育課題」に応じた具体目標を据える。

4 展開の概要（全 47 時間）

段階	活動内容	教師の支援	時間
目当ての確認	◇団子屋さんオープンに向けての活動を確認する。 ☆テーマの設定	・テーマをいっしょに書く。 ・活動計画を生徒と確認しながら、イラスト付きで板書する。	1
スマイル組だんご屋さんをオープンして、いろんな人に食べてもらおう			
団子屋さんオープンに向けての活動	◇市内の団子店調べ ◇市内の団子マップ作り ◇市内の団子店の見学と体験学習 ◇新作団子のレシピ作り ◇レシピを見て団子作りの練習 ◇クラス内で販売会の練習 ◇スマイル組ミニ団子屋（試食会）（本時 47 時間中 24 時） ◇試食した人の意見をもとに、作り方や渡し方の反省と改善 ◇団子作りの練習 ◇スマイル組団子屋作り（のれん・いすなど） ◇スマイル組団子屋オープン 注文をとって作った団子をプレゼント（先生方→家族→全校生徒）	・電話帳や住宅地図の使い方について手順表を用意する。 ・見学や体験の写真はできるだけ自分達で撮影し教室に掲示する。 ・レシピの見本を提示する。 ・レシピに注目するように声をかける。 ・販売の見通しが持てるように段階的（クラス内で練習→ミニ団子屋→団子屋）に行く。 ・試食した人の意見やお店の方のアドバイスを端的な言葉で大きく掲示する。 ・考えを文章に書いたり、課題を確認したりする場面では、写真やビデオ、板書などを活用して、自分たちの活動を振り返る場面を設定する。 ・手作りのれんのイメージがもてるように、型紙で作ってから布を使う。	44
まとめ	◇学習したことの振り返り ◇次の目当ての設定	◇団子を食べてくれた方からのメッセージをビデオや写真を使って伝える。	2

単元全体の概観を示す。

本単元における生徒の目当てを端的な言葉で示す。

単元の目標達成を目指して、押さえるべき主な学習内容を段階的に示す。

活動の流れに沿った主な支援を示す。

単元を振り返り、達成感を共感し、次の目当てをもつ。

5 指導上の留意点

- ・手洗いや食器の殺菌など衛生面には十分な配慮をする。
- ・調理をするために包丁・ガスコンロなどを使ったり、木工制作をするためにのこぎりや金槌などを使ったりする際は、声をかけあって安全に十分な配慮をする。
- ・延長コードの固定や机の配置など、生徒が安全に活動できるよう状況づくりを行う。

・単元全体にわたる危険防止・衛生面について書く。
・障害の程度や心身の状況で特に留意することについて書く。
・場面設定の意味を書く

6 本時案

(1) 主 眼

【全体のねらい】

新作団子の試食会の準備をしてきた生徒たちが、ミニ団子屋さんをオープンして先生方に新作団子を試食してもらう場面で、注文を取って団子を作り、感想を聞いたりビデオで振り返ったりすることを通して、味・注文の取り方・渡し方などについて、自分の目標を見つけて発表することができる。

【個人のねらい】

カナコさん：カードを活用して、先生方に団子の説明と試食のお願いをしたり、先生方に感想を聞いたりすることができる。

サトミさん：ビデオを見たり、先生方の感想を聞いたりして、あいさつをしながら両手で丁寧に渡したり丸くきれいな形に丸めたりすることの大切さに気づくことができる。

・どのような生徒が
・どのような場面で
・どのような手だてにより
・何を身に付けるか
※具体的な行動の形で記述する。
・個別の指導計画の「教育課題」とのつながりを意識する。

(2) 本時の位置

○前時：外部の先生方を対象とした試食会の準備をする。

○本時：47時間中第24時

○次時：自分の課題を意識しながらお団子作りの練習をする。

(3) 指導上の留意点

- ・調理活動に入る前に、手洗いや身支度を確認して衛生面には十分に配慮する。
- ・活動の様子をビデオで振り返る場面は、二人がテレビを見やすいように状況を整える。

(4) 展開

段階	学習活動	○…予想される反応 サトミさん（2年）	△…支援 カナコさん（1年）	☆…評価	時間	備考
導入	1 先生方に団子の説明と試食のお願いをする。	△「大きな声で聞こえるように」と書いてあるお願いの文章を書いたカードを手渡す。 ○先生方に団子作りをしている理由を説明し、食べてもらった後で、味・配り方・注文の取り方の視点で評価してほしいことをお願いするだろう。 △事前に試食をしてくださる先生（10名）に、挙手してもらうように依頼しておく。	☆先生方に聞こえる声で依頼できたか。		5	カード
	2 先生方に注文をとる。	△注文をとるためのカードを配り、誰がどの先生に注文を取るか確認する。 △二人の姿をビデオで撮影する。 ○緊張しながら「何がいいですか」と注文をとるだろう。 △集計用のボードを用意する。 ○担任に確認しながら計算するだろう。 △集計結果のボードを二人が見える場所に置く。	○メモを見ながら笑顔で先生方に希望を聞くだろう。 ☆先生方に聞こえる声で注文を聞くことができたか。 ○素早く計算し、残りの2種類も自主的に計算するだろう		5	ビデオ 集計ボード
展開	3 注文を集計する。					

前時とのつながりを大切にする。

学習の具体的なイメージがもてるようにする。

展 開	4 必要な数の団子を準備する。	△前時に生徒と一緒に所定の場所に材料と道具を用意しておく。 △二人が活動を始めたならみたらし団子を作る。 ☆必要な数の団子を用意できたか。 ○あんこをつける。 ○ごまとくるみみそをつける。	10	団子の材料	生徒が意欲的に学習を進め本時のねらいを達成するために。  何を（教材）どのように（学習の進め方）学ぶか計画する。
	5 先生方にできた団子を配る。	△二人より先に団子を作り終え「みたらしを注文された先生どうぞ」と声をかける。 ○担任の姿を参考にしながら、大きな声で「あんこを注文された先生どうぞ」と声をかけるだろう。 ○二人の姿を参考に、笑顔で「どうぞ」と呼びかけるだろう。	5		
	6 先生方に感想を聞く。	△二人の姿をビデオで撮影する。 ○メモを見ながら「先生方、感想をお願いします」と言うだろう。 ○サトミさんの後に、メモを見ながら「どうでしたか」と質問するだろう。 ☆先生方に聞こえる声で質問することができたか。	10	ビデオ	
ま と め	7 スマイル組団子屋開店に向けての目標を発表する	△先生方の意見を板書しておく。 △先生方の意見に合わせて、二人の姿を撮影したビデオを流し、よかったところや課題を言葉で指摘する。 △「今日よくできて本番でも今日みたいにやりたいと思ったところはどんなところですか」と聞く。 △「スマイル組団子屋さん開店に向けての目標を発表してください」と呼びかける。 ○「あいさつしながら両手で丁寧に渡したり、丸くきれいな形に丸めたりしたい。あと笑顔で、大きな声を出して注文を聞きたい」 ○「手際よく見た目のきれいなだんごを作って渡せるようにがんばりたい」 ☆団子屋オープンに向けた新しい目標をもち、みんなの前で発表することができたか。	10	ビデオ テレビ	本時の取り組みを認め合う。 達成できたことを具体的に確かめ合う。 次時への願いをもつ。

(5) 反省

二人とも、本時のねらいを達成することができた。特に、まとめの場面ではそれぞれが目標を自分で決めて発表することができた。実際の姿をビデオを見てすぐに活動を振り返ったり、大切な場面で一時停止をして、教師が、「ここがよい」と生徒の表情を見ながら称賛したりしたことにより、生徒は何をほめられているのかよく分かったようだ。そのことにより、生徒は自信をもつことができ、目標発表のときに称賛された場面について、「もっとがんばりたい」と大きな声で言うことができたと考える。そういう点から、ビデオを活用した称賛のタイミングと方法はよかった。

次時は、生徒が自分で決めた目標を達成できるように、生徒が今回発表した「気をつけたいこと」や「がんばりたいこと」を、生徒が自分で紙に書いて掲示する場面を設定していくなど状況を整えたい。

主眼に対して生徒の活動がどうであったか振り返る。

生徒のねらいに対して指導支援はどうであったか振り返る。

次時の指導計画の作成を開始する。

2 知的障害特別支援学級

(1) 知的障害特別支援学級の教育課程の編成

① 教育課程の編成

知的障害特別支援学級においては、在籍する児童生徒一人一人にそれぞれの教育課程を編成する必要がある。これらは、児童生徒一人一人の個別の指導計画を生かして編成する。その際、文部科学省が定める基準や、県教育委員会、市町村教育委員会の方針等を十分理解し、学校の教育目標や、知的障害特別支援学級はじめそれを取り巻く校内の諸条件、保護者や地域住民の実態や意向等を考慮することが大切である。

教育課程編成の手順は一律ではなく、当該学校の実情による。しかし、まず、児童生徒一人一人について個別の指導計画を作成することが必要不可欠である。個別の指導計画の作成については、「Ⅱ章特別支援学級の教育課程 1 個別の指導計画の作成と活用」を参照されたい。

② 指導内容及び指導の形態

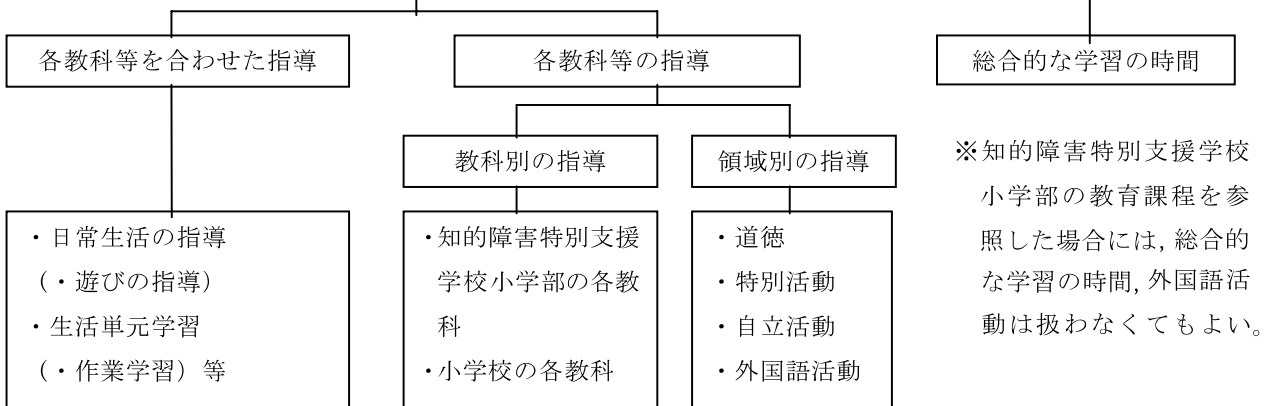
知的障害特別支援学校の教育課程を参考にした場合の指導内容と指導の形態の一覧を示す。

「小学校知的障害特別支援学級の教育課程」(5・6学年の例)

《指導内容》



《指導の形態》



(2) 知的障害特別支援学級の運営

① 生活づくり(週日課)

知的障害特別支援学級に在籍する全ての児童生徒の教育課程をすり合わせ、学級の時間割ができ上がる。

ア 小学校では、学校生活に見通しがもてるように、带状に日課を編成することが望ましい。

また、通常の学級との交流及び共同学習が予定されている時間には、在籍児童が通常の学級で活動するため、可能な範囲で予め通常の学級の時間割を知的障害特別支援学級にとって支障のないように編成してもらうよう依頼するとよい。次ページに例を示した。参照されたい。

イ 中学校では、学校全体でスライドが回っている場合は、带状に時間割を編成することが困難になる。また、教科担任制のため、様々な教員が指導に当たるケースが多い。可能な限り、学級担任の持ち時間を2時間続きで設定したり教科担任と連携を取って生活単元学習を進めたりして、生徒が見通しをもちやすい日課となるよう工夫したい。

② 校内・保護者・学校間の連携

児童生徒の指導に一貫性をもたせながら学校生活を円滑にすすめるためには、校内はもちろんのこと、保護者や学校間の連携を欠かすことができない。

ア 通常の学級担任との連携

知的障害特別支援学級に在籍する児童生徒にとって、通常の学級は、学校生活を過ごす上でもう一つの生活基盤となりうる場である。交流及び共同学習を計画的に進めるほか、日常的に通常の学級担任と連絡を取り合い、共に児童生徒の成長を願って同歩調で指導に当たるようにしたい。

イ 教科担任との連携

教科担任と日々児童生徒の様子を伝え合い、同歩調で指導に当たるようにしたい。また、指導内容について連携を取ることが大切である。生活単元学習を実施する場合、特に中学校においては、例えば国語でお世話になった方にお礼状を書き、家庭科でお礼の品を製作する等、授業内容を関連させてまとまりのある学校生活となるよう配慮したい。

ウ 全校職員との連携

職員会議や職員連絡会において、日々児童生徒の様子を学校職員に伝えて理解を促し、同歩調で当たるようにしたい。例えば、学級通信を全校職員に配布して児童生徒の様子を紹介したり、生活単元学習をはじめ様々な学習の機会に全校職員との交流を図ったりして、児童生徒への理解を進めたい。その際、全校職員から児童生徒へ称賛や助言等の支援を受けるようにし、児童生徒を支える基盤を広げたい。

エ 保護者との連携

知的障害がある児童生徒の保護者に対しては、その時々揺れる心に寄り添うことが大切である。保護者の気持ちを尊重し、ねぎらい、一方的に決めつけず、児童生徒の成長を確信して、共に歩む姿勢で誠実に向き合いたい。日常的には、連絡ノートで児童生徒のよい姿（頑張ろうとしたことや頑張ったこと、少しでもできるようになったこと等）を伝えて喜びを分かち合ったり、実態を共有して日々の指導に生かすようにしたりする。また、参観日には具体的な活動を通して「できる状況づくり」に配慮した部分を説明し、家庭学習の手立てに生かすよう共通理解を図りたい。

オ 全校児童生徒との連携

特別支援学級の学習の様子を全校に発信するとよい。教室前をはじめ全校で見る掲示板にも作品や写真入りの掲示物を展示して、様子を知らせたり発表したりする。また、販売や交流及び共同学習でも発表の機会を作る等、様々な形で全校児童生徒とかかわる場面を設定したい。

カ 入学前及び卒業後の連携

入学前の幼稚園・保育所・小学校及び卒業後の中学校・高等学校とは、児童生徒の実態のみならず、指導の方向も伝え合い、新しい環境の中で児童生徒に混乱が生じないように配慮したい。

週日課（例）

4年（音楽・図工・体育・特活・総合的な学習の時間は通常の学級へ）

	月	火	水	木	金
1	朝の活動（着替え、朝の会、健康観察、リズム運動、係活動ほか）				
	4年体育		4年図工	4年音楽	4年図書
2	課題学習（国語・算数）・自立活動				
			4年図工		
3	図工	生活単元	生活単元	生活単元	音楽
4		学習	学習	学習	体育
5	国語	算数	国語	算数	国語
	4年音楽	4年総合	4年体育		
6	パソコン	パソコン		児童会	クラブ
	4年学活	4年総合			

※図工は、通常の学級で制作し、特別支援学級で仕上げる。

※書写は、先に特別支援学級で練習し、自信をもって通常の学級の授業に参加できるようにする。

③ 教室環境

教室環境は、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、また見通しをもって一日の学習に取り組めるよう整える必要がある。在籍する児童生徒それぞれの必要感に応じて環境づくりを行いたい。教室内のロッカーや机等の配置や間仕切りの仕方、分かりやすい日課表の工夫や学習上の配慮点等については、後述の事例や「3 自閉症・情緒障害特別支援学級（2）自閉症・情緒障害特別支援学級の運営」等に具体的に示してあるので参照されたい。

④ 各教科等を合わせた指導

知的障害がある児童生徒に対しては、その障害特性に合わせて、意欲的・主体的に取り組んだり、より具体的・体験的に学んだりできるよう、各教科等を合わせた指導を行うことができる。

ア 日常生活の指導

日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように、日常生活の諸活動を適切に指導するものである。

指導内容は、日常生活を自立的に行うための力を育てることを意図して、知的障害特別支援学校小学部生活科の指導内容をはじめ、広く各教科等の内容が扱われる。すなわち、衣服の着脱・食事・排泄といった基本的生活習慣から、「朝の会（HR）」「係活動」「給食」等の中で扱える、特別活動や自立活動のねらいに沿った内容も多い。

指導に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。

- a 日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行うこと。
- b 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図る、繰り返しながら発展的に扱うようにすること。
- c できつつあることや意欲的な面を考慮して、適切な援助を行うとともに、目標を達成していくために、段階的な指導ができるものであること。
- d 指導場面や集団の大きさ等、活動の特徴を踏まえて、個々の実態に即した効果的な指導ができるよう計画されていること。

技能を高めることのみならず、できることや称賛を受ける喜びが心の安定や学校生活への意欲につながってくる。大切に扱いたい内容である。

コラム 「できる状況づくりのためのポイント」

- 1 進んでやろうとする気持ちを引き出すために→子どもの心の動きをとらえて、適切な働きかけをする。
 - ・子どもの自発的な動きを大切にする。 ・子どもの動きに教師がのる。 ・計画を弾力的に運営する。
 - ・やる気を育む適切な援助や励ましをする。 ・やる気になって活動できる雰囲気を作る。
 - ・活動意欲が育つ集団を編制する。 ・子どもが興味関心を持ち、力が発揮できる役割を与える。
 - ・見通しがもてるよう繰り返し取り組むようにする。
- 2 友だちとのかかわりがもてるようにするために→豊かな活動を展開し、人間関係の広まりを工夫する。
 - ・友だちとのかかわりを促す場面で、教師の仲立ちや無理のない誘いで取り組めるようにする。
 - ・気の合う友だちと活動できるようにする。
- 3 成就感や満足感を大きくもてるために→子どもの活動のよさを認め、心から称賛する。
 - ・なるべく自分の力でできるよう手順表や補助具等を工夫する。 ・集団の中で称え合う。
 - ・十分取り組めるように活動量を確保する。 ・子どもと心を共にしてほめるようにする。

イ 生活単元学習

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実践的・総合的に学習するものである。

生活単元学習の題材は、学級に在籍する児童生徒の興味・関心やその時期の意識をとらえ、一人一人の教育課題や具体的指導内容を含むようにしたい。

指導計画の作成に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。

- a 実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心等に応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- b 必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身につけた内容が生活に生かされるものであること。
- c 児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動を含んだものであること。
- d 一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。
- e 単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、一連の活動が児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること。
- f 豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して多種多様な経験ができるよう計画されていること。

学習活動においては、一人一人の児童生徒に対して「できる状況づくり」に努め、児童生徒の意欲的で主体的な取り組みを願いたい。

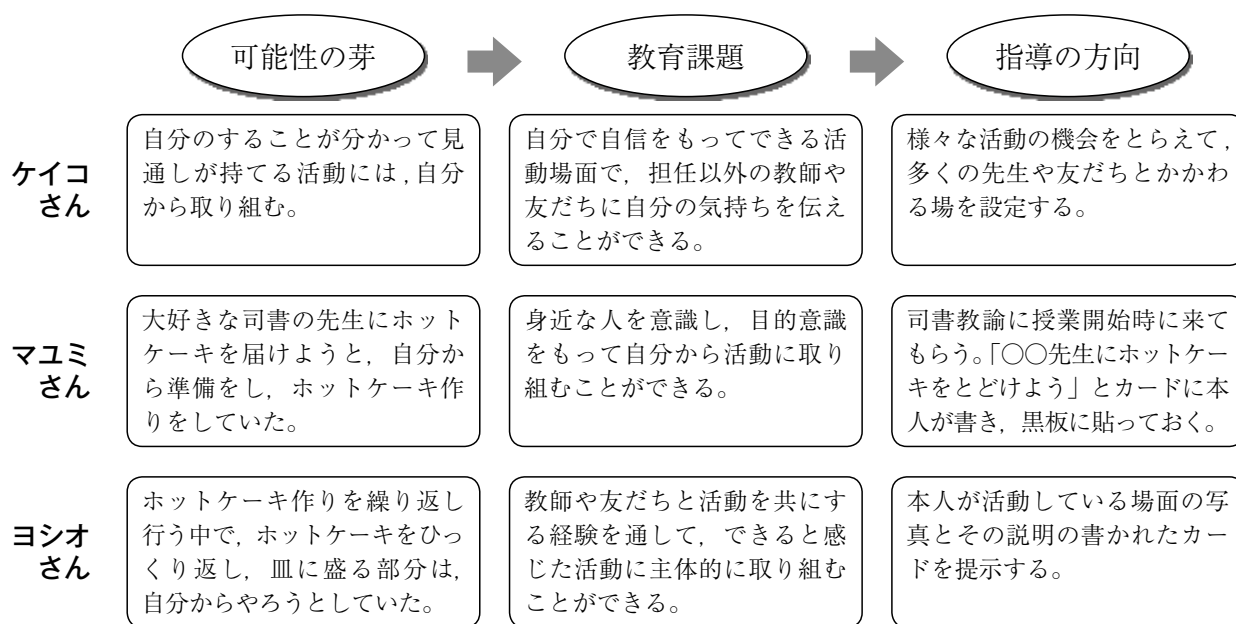
コラム 「生活単元学習 題材例」

- 1 子どもの日常生活に密着したものの中から
 - ・多くの子どもが喜んでやっている遊びを……「のりもの遊び」三輪車、自転車、リヤカー 等
 - ・親しみある遊びをもとに新しい遊びを……「タイヤ広場で遊ぼう」転がす、積む、運ぶ、踏む 等
- 2 それぞれの季節に見せる子どもの姿をとらえて
 - ・季節にふさわしい子どもの遊びを……「どろ遊び」「水遊び」「雪遊び」「落ち葉集め」「虫ごっこ」 等
 - ・季節感のある子どもの生活を……「草もちづくり」「氷水やさん」「焼きいも会」 等
- 3 学校・学級行事を、子どもが創り出し活躍できる活動に
 - ・子どもが楽しみにして待つ行事を……「学習発表会」「音楽会」「お楽しみ遠足」「〇〇交流会」 等
 - ・子どもの発想が生かされる学級の活動を……「学級開き」「誕生日会」「新年お楽しみ会」 等
- 4 身近な生活から徐々に社会に目を向けて（社会生活につながる現実的な活動）
 - ・現実度の高い活動を……「友だちの家へ行こう」「駅前へ出かけよう」交通機関・施設利用 等
 - 「クッキー作り」「クッキーやさん」「感謝の会を開こう」 等
- 5 子どもの心を揺り動かすような出来事をとらえて（偶発的活動）
 - ・日常生活に大きな影響を与える出来事を……「〇〇さんのお見舞い」「小鳥さんとのお別れ」 等
- 6 教科的学習を子どもが楽しみながら創り出せる活動に
 - ・子どもの発想を取り入れながら柔軟に展開できる活動を……「劇遊び」「人形劇」「劇団〇〇」 等

(3) 小学校知的障害特別支援学級の指導の実例

自分の気持ちを言葉で伝えることがむずかしいケイコさん。彼女のもつコミュニケーションの課題を、大好きな調理活動を発展させた活動の中で、4年1組担任をはじめ様々な先生方との連携を生かしながら、具現化していった。すると、大勢の中でも少しずつ自分の思いを伝えられるようになり、4年1組の中でも生き生きと活動することが多くなった。

① 個別の指導計画を生かした授業構想



② 学習指導案

1 単元(題材)名 「ひまわり組特製ホットケーキをみんなで作ろう！」(生活単元学習)

2 単元の成立(単元のよさ)

ひまわり組は6年生1名、4年生2名、計3名の学級であるが、障害の程度や種類は様々である。

1学期にはホットケーキ作りを繰り返し行い、先生方やお家の方に食べてもらい大変喜ばれ、どの児童も自信をもってホットケーキ作りに取り組んできている。次にひまわり組の畑でとれたサツマイモを入れたホットケーキ作りに挑戦した。すると、いつもの学校生活では、先生方に質問をされても自分から答えることがむずかしいケイコさんが、ホットケーキを職員室に率先して持っていき、「このホットケーキの中に何が入っているの。」という教頭先生の質問に笑顔で答える姿が見られた。マユミさんは「1組のお友だちにも味見をしてみよう。」と言って4年1組の担任に持っていった。味見をした4年1組の友だちから「サツマイモの入ったホットケーキおいしかったよ。」と書かれた手紙が届いた。マユミさんは、もっと上手にホットケーキを作れるようになって、みんなに教えてあげたいという気持ちが高まっていき、「4年1組の友だちと一緒に作りたい。」と言い始めた。

このような姿から、ひまわり組で自信をもって繰り返し取り組んできた活動を、4年1組の児童や他学年児童と一緒にやることにより、生き生きと自分なりの姿で活動に取り組んだり、ホットケーキ作りの場面や他の場面での言葉のやりとりへと広がったりするだろうと考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

全 体 目 標：自分たちの好きな活動を４年１組や他学年の友だちと一緒にすることを通して、友だちにわかるように手順を説明したり、友だちの前でも自信をもって分担された仕事を手順通り行ったりすることができる。

ケイコさん：ひまわり組特製ホットケーキを４年１組や他学年の友だちと一緒に作る中で、友だちにわかるようにはっきりと作り方を説明したり、友だちの質問に答えたりすることができる。

マユミさん：ひまわり組でできるようになったホットケーキを作る中で、４年１組や他学年の友だちの前でも、自分の分担された工程を一人でやりとげることができる。

ヨシオさん：自分が好きな教材提示装置を使ったり、得意なフライ返しを使ったりする活動の中で、他学年の友だちと一緒にホットケーキ作りをすることができる。

4 展開の概要

段階	活動内容	教師の支援	時
特製ホットケーキを作ろう	1 ひまわり組特製ホットケーキを作る。 ・何を入れようか。 ・どうやって作ろうか。 ・誰に味見をお願いしようか。 ・おいしく作る練習をしよう。 ・サツマイモ（カボチャ）をもっと入れるとおいしいよ。 ・職員室に持っていこう。 ・教頭先生に説明しよう。 ・友だちにも食べてほしいな。	・今までのホットケーキ作りや先生、家の人に喜んでもらったことを写真や担任の声がけから想起する。 ・今までと違うホットケーキを作りたいという意見を取り上げる。 ・畑でとれた野菜が食べないか提案する。 ・仕事を分担し、繰り返し作る練習をする。 ・中に入れる野菜の量を変えてみるよう提案する。 ・職員室の先生に、質問をあらかじめ依頼しておく。 ・味見のために、４年１組の友だちに届けるよう、提案する。	10
友だちと特製ホットケーキを作ろう	2 ４年１組の友だちとひまわり組特製ホットケーキを作る。 ・作り方を写真やカードを使って説明しよう。 （ケイコさん、マユミさん） ・プレゼンテーションソフトを使って説明しよう。 （ヨシオさん） ・司書の先生を相手に説明の練習をしよう。 ・４年１組の友だちと一緒に作ろう。 （本時）	・４年１組の友だちからの感想を読む。 ・活動様子を４年１組教室の廊下や全校児童がよく見る場所に掲示する。 ・写真を用意し、カードに書く言葉を一緒に考える。 ・担任がプレゼンテーションソフトの元を作り、ヨシオさんが気に入るように一緒に編集する。 ・司書の先生に、練習相手として、各児童に合わせて簡単な質問をすることを依頼する。 ・４年１組の担任の先生と、いつ作るか相談するように言う。	16
いろいろな人と作ろう	3 色々な人と特製ホットケーキと一緒に作る。 ・１年生と一緒に作ろう。 ・Ｓ中学校の１０組の友だちと一緒に作ろう。 ・Ｎ特別支援学校のコウキさんと一緒に作ろう。	・１年生担任に、ひまわり組教室に来て児童に直接お願いするように依頼する。 ・１年生にわかりやすく説明するにはどうしたらいいか一緒に考える。 ・Ｓ中学校に手紙を書いて、招待しようと提案する。 ・Ｎ特別支援学校のコウキさんとの交流があることを話し、どんな活動をしたらいいか考える。	8

5 指導上の留意点・指導の手だて

- ・仕事の分担や内容を一人一人の得意なことや好きなことに合わせて明確にする。また、分担された作業ができたかをお互いに評価する時間を設ける。
- ・担任も共に楽しんで活動しながら様子を見守り、自信をもってできるようになった段階で横について行う直接的支援から、手順カードや見守り等の間接的支援にしていく。
- ・やりとりの場面で支援が必要な際、担任がカードを出して、最初の部分のみ一緒に声を出す。
- ・安全面に配慮し、包丁やガスコンロは使わず、電子レンジやホットプレートのみを使用する。

6 本時の指導計画（本時案）

（1）主眼（ねらい）

ひまわり組で繰り返しホットケーキ作りに取り組み、自信をもち始めてきた子どもたちが、4年1組の友だちと一緒にひまわり組特製ホットケーキを作る場面で、作り方を説明したり、友だちと一緒に作ったりすることを通して、4年1組の友だちと一緒にしかかわりをもちながら活動することができる。

【ケイコさん】

自分で作ったカードを使って、繰り返し取り組んできた工程でホットケーキ作りをすることにより、友だちに聞こえる声で説明したり、友だちの質問に答えたりすることができる。

【マユミさん】

事前練習通りにカードで手順を説明したり、得意な工程を担当したりすることを通して、4年1組の友だちの前でも一人で自信をもって分担された作業をすることができる。

【ヨシオさん】

お気に入りの教材提示装置やフライ返しを使うことを通して、他学級の児童とかかわりながらホットケーキ作りをすることができる。

【4年1組児童】

ひまわり組特製ホットケーキを一緒に作りたいと願う子どもたちが、一緒にホットケーキ作りをする場面で、手順を教えてもらったり、一緒に作って食べたりする活動を通して、友だちのよさを感じ取って、ひまわり組の友だちに伝えることができる。

（2）本時の位置（全34時間中第25、26時）

前時：司書教諭を相手に説明の練習をしたり質問に答えたりしながらホットケーキを作った。

次時：1年生と一緒に作るための準備や、説明の練習をする。

（3）指導上の留意点

○教師の分担を原則として以下の様にするが、その場に応じて、どの教師もひまわり組児童と4年1組児童とのやりとりがスムーズにいくように支援する。

4年1組担任 4年1組全体の指導 ひまわり組児童の様子を全体に発信する。

ひまわり組担任 ケイコさんやマユミさんと4年1組児童のやりとりの橋渡しをする。

支援員（司書） ヨシオさんと一緒に活動をしたり言葉でのやりとりを補足したりする。

○ケイコさんやマユミさんが安心して活動できるよう、話のできる友だちがいる班編成にする。

○ケイコさんとマユミさん自身が書いた写真付きの手順表や材料表（模造紙）を貼っておく。

○ひまわり組児童と一緒に活動する班に、本人の顔写真のついた手順表を用意して、ひまわり組児童が担当する工程を明確にする。

○手洗いや身支度、食器の殺菌等衛生面には十分な配慮をする。

○野菜の下ごしらえや材料・用具の準備は、授業前にひまわり組児童と一緒にしておく。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される子どもの反応(○) 支援(△) 評価(☆)			時間	備考
		ケイコさん	マユミさん	ヨシオさん		
導入	1 本時の活動の確認をする。	○あいさつの後、今日の個々の目当てを発表する。 △本時のねらい「おいしいサツマイモホットケーキをみんなで作ろう」と書いた紙、ケイコさんが書いた手順表、マユミさんが書いた材料表を紹介しながら貼る。			5	ねらい 手順表 材料表 ビデオ
	2 手順を説明する。 前半：ケイコ 後半：マユミ	○カードを見ながら説明するだろう。 △読みやすいように、文に区切りをつけておく。 ☆友だちに聞こえる声で説明できたか。	○カードを見ながら説明するだろう。 △文を色分けしておき、文字を指で追いながら読むように言う。 ☆練習通りにカードを読んで説明できたか。	○教材提示装置にカードを並べるだろう △説明に合わせてカードを置くように、数字を読みあげる。 ☆順序よくカードを提示できたか。	10	ホットケーキの素 牛乳(量っておく) 卵 サツマイモ(加熱済み) ボール マッシャー 泡立て器 玉じゃくし ホットプレート
	3 グループごとにホットケーキを作る。	○いつも通りどんどん作ろうとするだろう。 △一人で全部やらずに、事前の分担通りに仕事をするように声をかける。 ○友だちの質問に答えようとするだろう。 ☆友だちに質問された時、相手に応じることができたか。	○友だちの声がけで、分担された作業をやるだろう。 △班の手順表のマユミさんが担当する部分に、顔写真を貼っておく。 △扱いやすいように、小さめの玉ジャクシを用意する。 ☆友だちの声がけで牛乳や生地を入れることができたか。	○友だちが手渡したフライ返しを使い、自分でホットケーキを裏返すだろう。 △友だちに、ヨシオさんの得意な活動を紹介し、依頼の言葉をかけて、フライ返しを渡すよう伝える。 ☆友だちと交代しながら裏返すことができたか。	45	
	4 会食会	○一緒に作った4年1組の児童と会食会をしながら、感想を発表する。 ○調理中のケイコさん、マユミさん、ヨシオさんや、4年1組児童の様子を撮影したビデオを見る。 △ひまわり組児童の感想を担当の質問の形でとりあげ、頑張った部分を紹介する。 △それぞれの活動のよさについて、4年1組児童に感想を発表するように言う。 ☆自分なりに感想を言うことができたか。			30	ビデオ

7 教材研究

(1) 特製ホットケーキの材料 ※児童にとって分量が分かりやすく、用意しやすいように！

○ホットケーキの素 1袋 ○卵 1個 ○牛乳 150cc ○バター 少々

○サツマイモ(カボチャ)適当量 ※どのくらい入れても失敗しない。入れる量により、色や味が変わる。

(2) 手順・分担

○カード(写真と文字)を見ながら、道具や材料をそれぞれのテーブルに準備する。



○手順表 一連の流れが分かる模造紙と1枚ずつめくれるカード形式のものを用意する。

写真付き（ヨシオさんは自分の写真のもの）で、その工程が終わったらめくる（リング止め）。

○ホットプレートの温度表示の部分に印をつけておく。

(3) 各教科等との関連

国語…手順カードを、区切りに気をつけて読む。

担任の手本を見ながら、手順カードを書く（カタカナや簡単な漢字を正しく書く）。

感想を考え、担任と一緒に文にして、自分で書く。

算数…焼けたホットケーキの枚数を数える（1列に並べる）。

一人2枚ずつだと○人で何枚必要か考える。

計量カップを使って150ccを量る。

図工…ひまわり組ホットケーキの絵を描いたポスターを作る。



③ 授業の様子

本時の授業では、ケイコさんは手順を書いた自作のカードを見ながら、堂々と説明でき、生地の混ぜ具合やホットケーキを裏返すタイミングを4年1組の友だちに聞かれたときに、「もう少し混ぜたほうがいい」「もうひっくり返していいよ」などと答えることができた。また、会食会では和やかな雰囲気になり、いつもと違うリラックスした表情で4年1組の友だちと一緒に活動を楽しむことができた。これは共に調理したことによるものであると考えられる。

一番の成果は、友だちの前で卵を上手に割ったり、生地を丸く流し入れたりすることができ、友達から「ケイコさん、すごいね。」「どうやったらそんなに丸く入れられるの?」などと声をかけられたことが、ケイコさんの自信につながったと考える。ケイコさんは、この自信から次時の1年生とのホットケーキ作りを楽しみにするようになっていった。

④ 成果と課題 単元を通したケイコさんの育ち

	活動内容	ケイコさんの活動の姿	
第1時	特製ホットケーキを考えよう。	担任の「中に何を入りたいですか」という質問に、大好きなホットケーキを作れるということでもっと喜び、大きな声で「カボチャを入りたい」と答えることができた。	経験のある好きな活動なら、言葉でのやりとりができてしまう。
第8時	職員室に届けよう。	「私が届ける」と言ってサツマイモホットケーキを職員室に持って行った。教頭先生の質問に「サツマイモが入っています」とはっきりと答えることができた。	教頭先生の質問に、一人で言葉で答えることができた。
第14時	司書の先生に説明しよう。	司書の先生とホットケーキを作る時に自作のカードを見せながら説明し、先生の質問に「ブツブツ穴があいてきたらひっくり返します」と答え、自分でやってみせた。	カードを用いて説明でき、自信をもって答えていた。
第27時	1年生と一緒に作ろう。	1年生の前で、自作のカードを見せながら聞こえる声で説明し、調理中も「どうやるの?」の問いに答えていた。授業後「他のクラスにも教えたい」と言った。	4年1組との調理学習が生きている。繰り返しの活動で自信を深めている。

よく知っている教師を相手に説明することから始め、大好きな調理活動を繰り返し行うことにより、4年1組の友だちに作り方の説明をしたり、一緒にホットケーキを作る中で質問に答えたりすることができた。ケイコさん自身は『友だちにきちんと説明できた』と自己評価したり、友だちに「ケイコさん上手だね」と認められたりしたことが自信につながり、その後の4年1組での活動や音楽、体育の授業でも、少しずつ自分から友だちとかかわろうとする姿が見られるようになった。

⑤ 個別の指導計画

教育課題個人表 (A 表)

4年 氏名 ケイコ

生育歴・諸検査・連携の記録など

生育歴：出産時異常なし。町立保育所に3年間通い、加配等なく集団の中で生活する。

家庭環境：父・母・弟・妹・本人の5人家族

父親は厳しく叱ることが多い。母親は感情の起伏が激しく、不安を口にする事が多い。本人は父親とはほとんど話さず、母親とはよく話すが、困ったことや失敗したことは話さない。

専門機関との連携：A特別支援学校教育相談担当と定期的に懇談

諸検査：WISC-Ⅲ全IQ〇〇 言語性IQ〇〇 動作性IQ〇〇
(H〇〇, 〇〇, 〇〇実施)

動作性優位、知的発達の遅れが見られる。

医学的所見：特になし

日常生活の姿

「目当て・見通し」

・がんばりカードにシールを貼ることを目標に、宿題に自分から取り組む。

・写真付きカードや工程表を見ながら、分担された仕事に見通しをもって取り組む。

・週の予定を担任と確認し、「〇曜日の生単で調理をするので、それを楽しみにがんばる」と言って学習に取り組む。

「自己決定」

・調理活動で作りたいものを提案し、道具の準備をしたり、自分から手紙をつけてよく知っている司書の先生に届けたりした。

「コミュニケーション」

・ひまわり組で繰り返し行った得意な活動について、よく話す先生や4年1組の親しい友だちに言葉で伝える。

・担任や母親には、家や学校での出来事をよく話す。

可能性の芽

- ・興味関心のある活動や、写真付きカード・工程表を見ることで自分のすることが分かって見通しがもてる活動には、自分から取り組む。
- ・繰り返し取り組んでいる活動で、人から認められたり自分でうまくできたと感じたりしたことには主体的に取り組む、友だちの手伝いを進め進めることができる。
- ・自分のしたことを認めてくれる人や、接する機会の多い大人には親しみを感じ、話すことができる。

願 い

【本人の願い】

・友だちと仲良く遊んで、楽しい学校生活を送りたい。

【保護者の願い】

・4年1組の友だちと仲良くしてほしい。

・漢字や計算などの基礎的な学力を身につけてほしい。

【担任の願い】

・自分の思いを言葉で伝えられるようになってほしい。

・得意な活動を通して自信を深め、同学年の友だちとのかかわりを広げてほしい。

【卒業後の姿】

・地元中学校の特別支援学級に入級し、生活に根ざした文字、数量の学習や人とのかかわり方を学び、社会自立をめざす。

教育課題

・興味関心のある活動を中心に、見通しや役割意識をもって最後までやり遂げることができる。

・経験があり、主体的に取り組める活動場面で、友だちとかかわって活動することができる。

☆一人で自信をもってできる活動場面で、担任以外の先生や4年1組の友だちに自分の気持ちを伝えることができる。

[人間関係の形成(4)] [コミュニケーション(5)]

指導の方向

- ・活動の見通しを持ちやすくするために、写真付きの手順カードとともに、作業分担を明示した全工程表を用意する。
- ・経験がある活動や、似たような経験をしていて興味がある活動を設定し、以前の活動でよくできたことを想起させるとともに、実際の活動でうまくできたときには大いに称賛する。
- ・様々な活動の機会をとらえて、より多くの経験ができるようになるために多くの先生や友だちとかかわる場を設定する。
- ・質問や感想などを、ひまわり組担任に言葉で伝える場面を多くとり、相手に伝える経験を増やす。

指導内容の選択・組織 (B表)

「指導内容の選択 (B-①)」			4年 氏名 ケイコ
各教科等	指導内容		
国語	・分からないときは尋ねる。〈小3-11〉 ・促音、長音などの含まれた語句や短い文を正しく読む。〈小3-20〉 ・片仮名やよく見られる簡単な漢字を読む。〈小3-21〉 ・簡単な語句や短い文を平仮名で書く。〈濁音・半濁音等〉〈小3-24〉		
社会	・いろいろな種類の店の名前が言え、販売している商品に関心をもつ。〈小3-11-3〉 ・学校や家の近くの交番や停留所、駅のおよその場所が言える。〈小生2-11-4〉		
算数	・簡単な加法・減法を用いる場合や意味が分かり初歩的な計算をする。〈小3-2〉 ・身近にあるものを使って、長さ、重さ、かさ比べる。〈小3-4〉 ・簡単な生活の処理を図表や○×などの表で示す。〈小3-8〉 ・時計でおよその時刻を読む。〈小3-9〉		
理科	・身近にいる昆虫、魚、小鳥などを観察する。〈小3-10-1〉 ・草花や野菜などを栽培し、観察する。〈小3-10-2〉		
音楽	・CDプレーヤー等を自分で操作して楽しむ。〈小3-1〉 ・旋律楽器に親しみ、簡単なさぐり弾きをする。〈小3-15〉 ・みんなと一緒に歌ったり、一人で歌ったりする。〈小3-17〉		
図画 工作	・表したいものを水彩絵の具やカラーペンなどを使って描く。〈小2-2〉 ・はさみやのりを使って、はり絵や工作をする。〈小2-9〉		
体育	・縄跳び遊びをする。〈小3-9〉・全力で短い距離を走る。〈小3-16〉 ・水中で沈み方、浮き方に慣れる。〈小3-23〉		
道徳	・友だちと仲よくかかわれる。		
特別活動	・学校行事には4年1組の一員として参加する。		
自立 活動	・聞かれたことに正しく答えたり、分からないときは質問したりする。 [コミュニケーション (5)] [人間関係の形成 (1)] ・4年1組の少人数グループと活動する。 [人間関係の形成 (1)(4)]		
総合的な学 習の時間	・学校の近くの川の調べ活動をしたり、裏山に行き自然に触れ合ったりする。		

※ () は知的障害特別支援学校 各教科の具体的な内容の項目 (共通・連携編V資料を参照)

「指導内容の組織 (B-②)」

指導の形態	指導場面	具体的指導内容	評価
各教科等を合わせた指導	朝の会	・宿題を提出し、カードに○をつける。 ・日付を黒板に書き、今日の予定を確認する。 ・その日の給食の献立を読む。 ・4年1組で給食当番の仕事をする。 ・自分の分担任を丁寧にさぐりかけをする。 ・一日の活動を振り返り、楽しかったことやがんばったことを発表する。	
	給食 清掃 帰りの会		
	生活単元 学習	・作り方の説明や手紙などの短い文を平仮名で書く。 ・よく見られる漢字の含まれた手順表を正しく読む。 ・重さやかさを正しく量る。 ・時計でおよその時刻が分かる。 ・安全に気をつけて器具を正しく使う。 ・畑で野菜を育てる。 ・聞かれたことに正しく答えたり、分からない時は質問したりする。	
	国語	・前日にあったことを簡単な文章で表現する。 ・2年生までの簡単な漢字の読み書きを練習する。 ・2年生の国語の教科書や、絵本を音読する。	
各教科等の指導	算数	・一桁同士の足し算・引き算の練習をする。 ・身近にある物の長さ、重さ、かさを調べる。	
	音楽	・4年1組で	
	図画工作	・4年1組で	
	体育	・4年1組で	
	道徳	・4年1組で	
	特別活動	・4年1組で	
	総合的な学習の時間	・4年1組で、学校の近くを散策し、周りの自然に触れた り、簡単な調べ活動をしたりする。	

年間指導計画 (C表)

ひまわり組

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式 1年生を迎える会	なかよし集会 修学旅行	校内音楽会 プール開き		水泳参観日 プール じまい	運動会 交通安全教室	遠足	マラソン大会 なかよし旬間		スキー教室		6年生を送る会 卒業式
組行事	ヨシオ誕生会 (授業公開)		ケイコ誕生会	七夕会 (授業公開)	地区特支学級 交流遠足	マユミ 誕生会	祖父母 交流会 (授業公開)	作品展見学 (中学特支級と)	クリスマス会 (中学特支級と)	新年会	豆まき会	ひなまつり会 卒業を祝う会 (授業公開)
生活単元学習	こいのぼりを かざろう 【栽培活動】 サツマイモ、ミニトマト、キュウリ、ナス、カボチャなどの植え付けと収穫、畑の手入れ、畑でとれた野菜を使っの調理 【遊び】 魚釣り遊び、シャボン玉遊び、プールで水遊び 【その他】 音楽会に向けて 運動会に向けて 作品展に向けて クリスマス・年賀状作り 正月の遊び 豆まき ひなまつり											
日常生活の指導	基本的な生活習慣（身辺自立に関すること、健康に関すること、安全に関すること） ケイコ：挨拶をする 身の回りの整理整頓 時間を守る 手洗い・うがい 交通安全に気をつけ登校班で登校する マユミ：挨拶をする 身の回りの整理整頓 トイレの使い方 一人で服の前後に気をつけて着替える 食器を手にとって食べる 手洗い・うがい ヨシオ：カバンの片づけ トイレで一人でズボンをおろす 手を一人で洗う 給食が終わるまで席を立たない 自分の食器を片づける ゴミ捨てに行く											
各教科・道徳・総合的な学習の時間等	国語	ケイコ・マユミ（年間を通して）1年～2年の漢字の読み書き、教科書の音読 日記を書く 手紙や招待状を書く ヨシオ：ひらがなのビデオを見て発音してみる 絵本や紙芝居の読み聞かせ ひらがなの書かれたさいころを投げ、ひらがなに興味をもつ 七夕の短冊を書く										
	算数	ケイコ・マユミ：（年間を通して）一桁の足し算・引き算 長さや重さ、かさの学習 色々な形 時計を読もう ヨシオ：教師と一緒に、一対一に物を配る 教師と一緒に1，2，3…と声に出して数える 色々な形 大小を比べよう										
	社会	学校の周りの地図を作ろう お店に買い物に行こう 町役場に見学に行こう										
	理科	春探しをしよう 花や野菜を育てて観察しよう 身近にいる昆虫・魚・鳥の観察をしよう										
	音楽	ケイコ・マユミ 4年1組で参加 音楽会の練習 ヨシオ：CDを聞こう キーボードにさわってみよう 色々な音を出してみよう										
	図工	ケイコ・マユミ 4年1組で参加 マーブリングを楽しもう 作品展に出す作品を作ろう アイロンビーズ作り カレンダー作り										
体育	校庭遊具遊び 水泳・水遊び 運動会の練習 鉄棒 なわとび 雪遊び ルールのある遊び（鬼ごっこ等） ヨシオ：年間を通して 介助員と外歩きをし、体力をつける											
道徳、特別活動、総合的な学習の時間	通常の学級で参加											
自立活動	ケイコ：聞かれたことに正しく答えたり、分からないときは質問したりする 4年1組の少人数グループと活動する [コミュニケーション (5) 人間関係の形成 (4)] マユミ：挨拶をする 聞かれたことに答える 4年1組の少人数グループと活動する [コミュニケーション (5) 人間関係の形成 (4)] ヨシオ：尿意・便意を知らせる 教師の声がけでズボンの上げ下ろしを行う 一人で手を洗う 自分の力で食べ物を増やす [身体の動き (3)(5)] 本人なりの仕方であいさつをする 名前を呼ばれたら返事をする 教師の指示を聞き、それに従って行動する [コミュニケーション(2)(3)]											

Ⅱ 章

(4) 中学校知的障害特別支援学級の指導の実例

特別支援学級虹組は、1年生のケンさんとシンさん、2年生のユウコさん、3年生ヒロコさんの4名の学級。4人は昨年小中特別支援学級の交流会で何度か一緒に活動していたこともあって、入学直後から特に緊張することなく楽しく生活できている。

1学期のある日、学級で育てていた金魚が卵を産んだ。その卵がかえり、赤ちゃん金魚が生まれた。生徒たちは新しい大きな水槽を購入しようと考えた。販売活動やお店調べ、お店への行き方練習などの活動に意欲的に取り組み、大きな水槽を購入することができた。

① 個別の指導計画を生かした授業構想

	可能性の芽	教育課題	支援の方向
ヒロコさん	通常の学級の友だちが話しかけてきたときに、笑顔で応える。 本校の先生方や一緒に活動した大人には、笑顔で積極的に声をかける。	初対面の大人や通常の学級の友だちに対して、自分の思いを言葉で伝えることが増える。	・ヒロコさんがこれまで接していない大人と出会う場面や通常の学級の友だちに話しかける場面を設定し、教師がモデルを示しながら一緒に活動する。
ケンさん	嬉しい気持ちや不思議に思ったことなどを学級の中で口に出して言うようになってきている。	自分の感じたこと（嬉しかったこと・疑問・推薦したいことなど）を様々な人に言葉で伝えることが増える。	・ケンさんのつぶやきを教師が大切に取り上げ称賛する。 ・「ケンさんこんなこと言っているよ」と友だちに紹介する。
ユウコさん	「こんなことしたら、〇〇さんは、△△って思うのかな」とつぶやく。	相手の気持ちを考えて行動や言葉を選んだり、文章を書いたりすることが増える。	・誰かに読んでもらう文章を書く場面を設定する。 ・「先生だったらこう思うけどユウコさんは」と質問する。
シンさん	「先生ありがとうございます」と言って借りたものを返すようになった。	場に応じた丁寧な言葉や態度で対応することが増える。	・教師がモデルを示す。 ・活動する直前に端的な言葉がけや指さしでシンさんの気づきを支援する。

② 学習指導案

- 1 単元名「金魚のために、大きな水そうを買おう」（生活単元学習）
- 2 単元の成立

(単元のきっかけ) 「金魚の赤ちゃんだ。」

虹組は、元気な1年生のシンさん、好奇心旺盛な1年生のケンさん、優しい2年生のユウコさん、リーダー的存在の3年生のヒロコさんの4名のクラス。みんな仲よく楽しく生活ができている。

5月のある日、教室の水槽に金魚の卵が無数に浮かんでいた。「金魚生まれるの。」「育てたい。」と口々に言う生徒たち。数日後、卵からかえったたくさんの稚魚を見てみんなは大喜び。ユウコさんは水の汚れを気にしながらそっとエサをあげた。

(意欲の高まり) 「大きな水そうを買おう。」

「大きくなったね。」とケンさん。「そろそろこっち（親金魚の入っている水槽）に移そうか。」と担任が言うと、「せまくない。」とユウコさん。「どうする。」と担任が問いかけると、「新しいの買うか。」とシンさんが提案した。翌週、担任が金魚専門店で撮影してきた大き

な水槽の写真を提示すると、「いいねこれ。」とケンさんが言う。「どこにあるの。」とユウコさん。「〇〇商店だよ。」と担任が答えると、「前に金魚を買いに行ったところだ。」とヒロコさん。「〇〇商店に行こう。」とシンさん。こうして、みんなで〇〇商店に新しい大きな水槽を買いに行くことが決まった。

(目当てがすわって)「野菜を売ってお金をかせごう」

「これ、5,980円で書いてあるよ。」とユウコさん。「大きいから高いね。」と担任が言うと、「前みたいに畑の野菜をいろんな人に売ったら。」とヒロコさん。「うん、売ろう。」とシンさんも賛成する。こうしてクラスの畑で育てた野菜を売って、水槽代にすることが決まった。シンさんは畑に行き「このトマト売ってもいいかな。」と先生に聞く。ユウコさんは、パソコンで宣伝用のチラシを作り始める。それを見たヒロコさんは、「クラス（通常の学級）の友だちにも配ろうよ。」と提案する。ケンさんは販売用のベンチを作るために倉庫に木材を取りに行った。

(教材観)

生徒にとって金魚は特別な存在である。エサやり、水替え、水槽掃除などをみんなで分担し合って行ってきた。金魚を題材にした絵や作文を書いたり、学級のデザインに金魚を取り入れたりしてきた。今回の題材はそんな生徒たちにとって必要感があり、主体的な取り組みが期待できる。野菜を販売する活動や金魚を購入する活動では、人とのかかわりの広がりや、公共交通機関の利用という社会性の育ちも期待できる。生徒は1学期に、野菜を売ったお金を使ってお楽しみ会を行った経験があり、活動の見通しをもつこともできるだろう。また、販売用のお店作りでは、旗やイス、チラシなど様々な製作活動を仕組むこともできそうである。更にお金の計算や地図の見方など、これまで教科の学習で身につけてきた力を実際の生活場面で使うこともできるだろう。

こうして生徒たちの中に、『野菜を販売した売上金で大きな水そうを買いに行く』という目当てがすわり単元が成立した。

3 単元の目標

【学級全体の目標】

- ・販売活動では、自分の分担を責任持って行い、お客さんとかかわりながら活動に取り組むことができる。
- ・畑の水やりや草取り、収穫などの活動に時間いっぱい取り組むことができる。
- ・事前の練習を生かして、自分で切符を買い、電車を利用して目的地に到着することができる。
- ・水槽購入場面では、場に合った言葉づかいで店員さんとやりとりすることができる。

【個人の目標】

- (ユウコさん)・買いに来る人の気持ちを考えながら、レイアウトや文章をわかりやすく、興味を引くように工夫してチラシを作ることができる。
- ・販売活動の場面では簡単なお金の計算を正確に行うことができる。
- (ケンさん)・販売活動の場面ではお客さんに、自分の経験（栽培や調理）をもとに、野菜の紹介などや、新鮮さを言葉で伝えることができる。
- ・お店作り（商品の陳列、値札つけ、ベンチ作り）の場面で、手順に沿って作品が出来上がるまで製作活動に取り組むことができる。
- (ヒロコさん)・販売用チラシを通常の学級の友だちに言葉を添えて配布することができる。
- ・お客さんと言葉のやりとりをしながら販売活動ができる。
- (シンさん)・お店作りでは、いすやのれんを丁寧に作ることができる。
- ・両手で商品を渡す、品物をそっと袋に入れるなど、丁寧な対応ができる。

4 展開の概要 【全 50 時間】

活動の芽	◇金魚の赤ちゃんが誕生 「虹組の金魚大切に飼いたいな。」 「育ててみたいな。」 「野菜を売るとお金をかせげるよ。」	【教師の支援】 ・金魚が産卵できる環境を整える。 ・金魚の水槽を教室中央に設置する。 ・学校の近くに畑を確保し野菜作りをする。 ・先生方を対象とした野菜販売の経験を積む。 ・従来の水槽に金魚を放してみんなで見る場面を設定する。 ・大きな水槽の写真を提示し値段と店名を伝える。 ・野菜を売ってお金を働き出した経験を想起できるように、販売時の写真を教室内に掲示しておく。
醸成期間	◇生徒の意識 「この水そうじゃせまいな。」 「大きな水そうが必要だ。」 「どこに買いに行けばいいのかな。」 「たくさんのお金が必要だ。」 「野菜を売ったらどう。」	
単元の成立		私たちの金魚のために、野菜を売って大きな水そうを買いに行こう。
展開	◇販売会に向けての準備 (25時間) ・販売場所借用のお願い ・チラシの作成、印刷、配布 ・野菜の収穫、計量、袋詰め ・値札つけ・のれん、ベンチ作り ・お金と品物の受け渡しの練習 ・スーパーで野菜の値段調べ ・販売価格の相談と決定 ◇販売会 (1回 2回 3回) (8時間) ・テント張り ・商品の陳列 ・宣伝、接客 ・お金と品物の交換 ・後片付け ・売上金の計算 ・購入に必要なお金の計算	・購入予定の水槽の写真をカラー印刷して、教室に掲示しておく。 ・目標金額を掲示し、目標までの金額が視覚的にとらえられる大きな棒グラフを用意する。 ・計りに目印をつける、チラシの見本を掲示する、必要に応じて担任が計算方法を演示する、商品合計金額計算カードを用意するなど、生徒の実態に応じた「できる状況づくり」を行う。 ・活動の見通しがもてるように、販売会を繰り返す (計3回を予定) 行う。 ・生徒が活動の見通しをもてるように、接客、電車の乗り方練習などを教室で行う。 ・水槽の販売店までの地図を生徒と一緒に作成し教室内に掲示する。
	開	
願いの実現	◇金魚の引っ越し ・新しい水槽に、子どもの金魚と大人の金魚を移す。 ◇活動の振り返り (2時間) ・自分達の活動場面を撮影した写真を使って、やってきたことや感想を書いて掲示する。	

5 指導上の留意点

- ・一人一人が活動に見通しをもって意欲的に取り組めるように、各自の得意なことや好きなことをもとに分担を決め、一人一人「できる状況づくり」を行う。
- ・販売活動では、繰り返しの中で見られる生徒の育ちをとらえて、本人に分かるように評価していく。
- ・水槽を購入する際は、事前に下見を行い計画案を立案して、引率職員同士連携しあって安全に配慮した指導を行う。

6 本時の指導計画

① 主眼

水槽購入の資金作りのために自分たちで育てた野菜を販売しようと準備してきた生徒たちが、2回目の販売会を行う場面でがんばりたいことを書いたカードを確認したり、友だち同士で販売の練習をしたりすることを通して、自分の目当てを意識しながら主体的に販売活動に取り組むことができる。

② 個人のねらい

- (ユウコさん) お金の計算を一人で正確に行い、お客さんにおつりを手渡すことができる。
 (ケンさん) お客さんに、「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」「おいしいですよ」「新鮮ですよ」などと言うことができる。
 (ヒロコさん) 「ありがとうございます」「この野菜は〇〇にしたらおいしかったです」など、初対面のお客さんに声をかけながら販売活動ができる。
 (シンさん) お客さんに両手で確実に商品を手渡すことができる。

③ 本時の位置

- 前時：担任がお客さんの役になって接客の練習をする。
 ○本時：53時間中第27時
 ○次時：販売活動の反省会と売上金の計算をする。

④ 指導上の留意点

- ・交通事故には充分に気をつけ、お店（テント）周辺で活動するように声をかける。
- ・ミニ金庫を用意し、おつり用の硬貨をたくさん用意しておく。

⑤ 展開

段階	学習活動	○…予想される反応	△…支援	☆…評価	時間	備考
導入	1 目当ての確認	△「がんばりたいことを発表してください」と声をかけ、生徒の言葉をカードに書いて掲示する。 ○「間違えずに計算したい」 ○「丁寧に渡したいです」 △生徒同士や生徒と教師で販売の練習してみるように促す。 ☆頑張りたいことをみんなの前で言えたか。			5 分	目当てカード
展開	2 販売	ユウコさん ○お金の計算が合っているかを確かめようと、教師に助けを求めるだろう。 △最初のお客さんのときに、教師と一緒にカードを指さしながら計算する。その後は、ユウコさんの活動を見守りユウコさんが教師と視線を合わせようとしたときに、やり方が合っていたら笑顔でうなずく。 ☆一人で合計金額やおつりの計算ができたか。			35 分	計算用カード <

7 教材研究

◇生徒が「あの水槽を買うためにがんばりたい」という目当てをもって活動できるように、教室に購入予定の水槽の写真を掲示する。

◇学校から〇〇商店までの行き方に見通しが持てるように、生徒と一緒に商店までの行き方を表した地図を作成する。

◇自分達が働き出したお金がどれくらい貯まったのか、あとどれくらいで水槽が買えそうなのかをイメージできるよう水槽の写真に棒グラフを教室に掲示する。

◇育ちが期待できる教科の力

(国語科)

- ・相手の要求を聞く。相手に必要なことを伝える。 ・場に応じた言葉を使う。
- ・文章を考える (チラシまとめ)。

(数学科)

- ・お客さんからいただく金額, 売上金などを計算する。 ・お金を使ったやりとりをする。

(社会科)

- ・公共交通機関の利用方法を学ぶ。 ・地図を作成する。 ・スーパーで値段を調べる。

(技術家庭科)

- ・木材を切る, 接合する, 磨く, 塗装するなどしてイスを作る。



水槽の写真

③ 授業の様子

ユウコさんは最後まで笑顔でお金の計算をやりきることができた。途中で間違えても投げ出さずにやり直していた。ケンさんは、お店の人やお客さんや駅員さんなどに積極的に声をかけることができた。ヒロコさんは販売の際、隣にいた先生の「この野菜何の料理にしたっけ」という声がけに応じて、笑顔で「カレーに入れたら美味しかったですよ」と初対面のお客さんに伝えることができた。また、通りかかった通常の学級の友だちと笑顔で手を振り合い、「よかったらどうぞ」と声をかけることもできた。それに対して通常の学級の友だちも近づいてきて笑顔で「売れてる？」と声をかけていた。シンさんは初対面のお客さんに「どうぞ」と言って商品の野菜を両手で丁寧に手渡すことができた。



みんなのお店

④ 成果と課題

【成果】

本単元は生徒一人一人についてこの時期の教育課題にかかわった育ちの姿を見ることができた。個別の指導計画の指導の方向を活用した毎時間の支援の積み重ねがこの育ちを支えたと考える。

生徒たちが関心を寄せていた金魚を題材にし、金魚の産卵というその時期の生活の中から生まれた課題を単元化したことにより、生徒は強い必要感を持つことができ、単元を通して主体的に活動する姿につながったと考える。

【課題】

今後も、生徒がその活動のねらい(例: 何のために販売活動を行うのか)を理解せずにただ販売活動をするような学習ではなく、その子なりに「〇〇のために△△を頑張りたい」という目当てがもてるような支援を大切に心がけていきたい。また、生徒が活動に対する意欲を持ち続けるためには、活動の見通しがもてることが大事であることを今回の実践を通して改めて感じた。

⑤ 個別の指導計画

教育課題個人表（A）

3年 氏名 ヒロコ

生育歴・諸検査・連携の記録など

- 小学校
T小学校の通常の学級で生活。
- 家庭環境
ヒロコさんの育ちを理解し温かく見守っている。授業参観にも積極的に参加する。
- 家族構成
父、母、姉（N高2年）、祖父、祖母、叔母
- 諸検査
WISC-Ⅲ 全IQ〇〇 言語性IQ〇〇
動作性IQ〇〇（H〇.〇実施）
知的発達の遅れが見られる。
視覚情報有効
教研式知能検査ISS〇〇
（H〇.〇実施）

日常生活の姿

- 【経 験】
- ・お団子作りの練習を繰り返す。出来上がったお団子を先生方に試食してもらい、「もっともちもちした方がよい」と言われやり方を振り返る。教えてくれた名人に手紙を書いたり、直接会って言葉で質問したりする。
 - ・担任やユウコさんとN小学校との交流会の写真を見ながら交流会を振り返ると「〇〇さん元気だったよね」と言う。
- 【人とのかかわり】
- ・休み時間にテレビで見たクイズや、好きな食べ物などを担任や特別支援学級のクラスメートに聞く。
 - ・バレーボールクラスマッチで、ヒロコさんのサーブが決まり通常の学級の友だちが「やった」と言って駆け寄ってくると笑顔でタッチする。
- 【主体性】
- ・クッキーを繰り返し作る。やり方が分からなくなると「先生と担任を呼んで質問する。」
 - ・クッキーをいくらで売ればよいのかを考えたとき、担任が簡単な数字で同じタイプの問題を出すと、「分かった」と言って黒板で計算を始める。

可能性の芽

- ・本校の先生方や一緒に活動した大人や特別支援学級の友だちには、積極的に意見を言ったり、質問したり、自分の経験を語ったりすることが見られてきた。
- ・通常の学級の友だち（数人の女子）が話しかけたり、誘ったりしてくれたときには、笑顔で話し返したり、いっしょに行動したりする。
- ・担任に分からないところを聞いたり写真などを参考にしたりすれば、手順に沿って活動することができるだろう。

願 い

- 【本人の願い】先生や友だちと冗談を言い合って楽しく勉強やゲームをしたい。クラスメートと様々な体験をしたい。
- 【保護者の願い】本人の希望を大切にしたい。個別学習で着実に力をつけていってほしい。本人に合った進路を見つけてほしい。
- 【担任の願い】人とのかかわりの輪を広げてほしい。挑戦する姿勢と丁寧に活動する姿勢の両面が伸びてほしい。
- 【卒業後の願う姿】
- ・N特別支援学校高等部かS特別支援学校高等部に進学し、一人で電車やバスなどを使って登校する。
 - ・身近な友だちや教師に、積極的に自分の考えを述べたり、相手の気持ちを考えて行動したりする。
 - ・休日は、身近な友だちや家族と外出し、映画を見たり、買い物をしたりする。

教育課題

- ☆初対面の大人や、通常の学級の友だちに対して、自分の思いを言葉で伝えることが増える。
[コミュニケーション（5）]
[人間関係の形成（1）]
- ・担任や友だち、第三者の大人の意見を参考にしたり質問したりしながら、自分の役割を確認し、手順に沿って一人で丁寧に作業の終わりまで活動することができる。

指導の方向

- ・活動の区切りに、その活動を振り返る時間を設定し、ヒロコさんの考えを板書しておく。
- ・ヒロコさんがこれまでに接していない大人と出会う場面や通常の学級の友だちに話しかける場面を設定し、教師がモデルを示しながらいっしょに活動する。
- ・通常の学級の友だちや初対面の大人など、ヒロコさんと活動した人からの手紙やその人たちと活動した場面の写真などを見やすい場所に掲示する。
- ・イラストや写真などの画像情報を使った作業手順表を用意する。ヒロコさんの活動場所の正面に掲示し、活動の始めはヒロコさんが質問してきたときに、担任が手順表を見るように声をかける。

指導内容の選択（B－①）

3 年 氏名 ヒロコ

各教科等	指導内容
国語	- 必要なきときには丁寧な言葉や適切な言葉を使ったりする。〈中－11〉 - コンピュータを使い漢字や仮名交じり文を作成する。〈高－1－25〉 - よく使われる漢字の書き方や使い方がわかる。〈高－1－24〉
社会	- 公共交通機関を利用し、正しく利用する。〈高－1－16〉 - 簡単な地図や路線図を作りながら身近な地域の地理について理解する。〈高－1－31〉
数学	- 数式が分かり生活の中で様々な計算ができる。〈高－1－2〉 - 計算機を使って簡単な計算をする。〈中－4〉
理科	身近にいる主な動物の習性や特徴に関心をもつ。〈中－9〉
音楽	通常の学級で活動する。
美術	
保健体育	
技術家庭	
道徳	
外国語	- 英語の歌を歌ったり簡単な英語を使ったゲームをしたりする。〈高－1－2〉 - 正しい文字の形、つづりや符号の使い方に関心を持ち、簡単な英語を積極的に読んだり書いたりする。〈高－2－4〉
特別活動	通常の学級で活動する。
総合的な学習	初対面の大人や、通常の学級の友だちに対して自分の思いを言葉で伝えることができる。 〔コミュニケーション（5）〕 〔人間関係の形成（1）〕
自立活動	

指導内容の組織（B－②）

3 年 氏名 ヒロコ

指導の形態	指導場面	具体的指導内容	評価
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	- 所定の位置に宿題を提出する。 - 係（司会・水やりなど）の仕事を行う。	
	生活単元学習	- 販売会に向けての準備をする。 - 販売会をする。（3回） - 集まったお金で水そうを購入する。 - 自分達の活動場面を撮影した写真を使って、やってきたことや感想を書いて振り返る。 - 地図を見ながら目的の場所を探す。 - 見学した場所を地図の上書き込む。 - お店で買い物をする。	
各教科等の指導	国語	- 外部の方と活動するときに学級を代表してあいさつする。 - コンピュータを使ってチラシを作成する。 - 漢字検定7級の漢字の読み書きができるように練習する。	
	数学	- 小数のわり算で、小数点の位置に気を付けながら計算できるようにする。 - 販売学習で計算機を使いおつりを正しく計算できるようにする。	
	理科	金魚の世話をしながら金魚とその幼魚の様子を観察する。	
	音楽 美術 保健体育 技術家庭 道徳	通常の学級	
	英語	- 英語を書いたり、発音したりできる単語の数が增える。 - 動詞を使った簡単な英文を覚える。	
	特別活動	通常の学級	
総合的な学習の時間		通常の学級	

年間指導計画（C表）

3年 氏名 ヒロコ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式 対面式 修学旅行	保健検診	総合的な学 習1日体験	交流会① 吹奏楽部地 方大会	夏休み 吹奏楽部大 会	特別支援学 校体験入学	文化祭	特別支援学 校入試 作品展	交流会② 学級お楽し み会	学級スキー 百人一首大 会	交流会③ 学級お別れ 旅行	バスケCM 卒業式
生活単元学習	◇畑での野菜栽培（通年） ◇栽培した野菜で料理を作って食べよう（通年） ◇新しい先生と仲良くなろう ◇交流会の計画をたてよう① ◇金魚の水槽を買おう ◇学級お楽しみ会をやろう ◇作品展用作品作り ◇交流会の計画をたてよう② ◇交流会の計画を立てよう③ ◇お別れ会をしよう											
教科等	国語	◇漢字練習と読書（通年） ◇自己紹介カードを書こう ◇修学旅行のまとめを書こう ◇販売会のチラシを作ろう ◇交流相手に手紙を書こう ◇習字 ◇百人一首の練習 ◇畑の持ち主さんにお礼の手紙を書こう										
	数学	◇計算練習（2桁×2桁 2桁÷1桁の計算など）（通年） ◇簡単な文章問題練習（通年） ◇模擬貨幣を使ったお金のやりとり練習（販売会の前に集中的に行う）										
	英語	◇単語の書き取りと発音（通年） ◇ALTと英語のカードを使ったゲーム ◇英語の歌を覚えよう。（交流会で歌う歌）										
	理科	◇春の植物観察 ◇金魚の観察と飼育（通年） ◇夏の植物観察 ◇秋の植物観察 ◇糸電話を使った音の実験										
	その他	◇音楽、美術、保健体育、技術家庭、道徳、特別活動、総合的な学習の時間は通常の学級の生徒と一緒に同じ内容の学習を行う。										
自立活動	◇初対面の大人や、通常の学級の友だちに対して自分の思いを言葉で伝えることが増える。 [人間関係の形成（1）] [コミュニケーション（5）]											

3 自閉症・情緒障害特別支援学級

(1) 自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程の編成

① 教育課程の編成

自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程は、小中学校の学習指導要領に基づき、各学年の教育課程編成をもとに、特に必要がある場合には、特別の教育課程を編成することができる。その場合、児童生徒の実態に合わせ、特別支援学校の学習指導要領を参考にして編成することができる。

② 指導内容及びその指導

小中学校の学習指導要領の各学年の指導内容をもとに、一人一人の障害の状態を的確に把握し、各教科等の指導内容を選択組織する（「個別の指導計画」作成）。また自立活動（障害による学習上又は生活上の困難の改善または克服を目的とする指導）と教科指導の補充（障害に応じて各教科の内容を補充するための指導）の内容も組み入れることができる。指導を進めるに当たっては関係諸機関との連携を図りながら「個別的教育支援計画」を作成し、一人一人の児童生徒の障害に状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うとともに、教師間の連携に努め、効果的な指導を行う。

③ 標準年間指導時数

年間の指導時数は学校教育法施行規則の各学年の指導時数に準ずる。

基本的には通常の学級と同じ指導時数で、同じ内容を学習するが、児童生徒の実態から、通常の学級への授業参加も考慮して指導時間数を工夫する。

④ 時間割の工夫及び弾力的運用

学校生活や学習に見通しがもてることにより、心理的な安定を図ることができるという意味で、带状の日課（表1）を取り入れたり、毎日の時間割を固定したりするなどの工夫をするといよい。その際一人一人の児童生徒や学級、学校の実態に応じて、弾力的に運用する。

(2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の運営

① 生活づくり

児童生徒にとって見通しのもてる生活づくり・授業づくりを行うことが、心理的安定につながる。不安感やストレスをためないように、かつ可能性が広がるように、分かりやすい生活づくりに努めたい。

ア 日課の例（小学校）

1日の生活を児童の個々の実態に応じて調整する。比較的集団適応の状態のよいA児は、給食を通常の学級で食べている。

集団不適応のC児、対人恐怖のあるD児は、大人と登下校を共にしている。特にD児は、集団と接触しないように、昇降口ではなく直接教室のベランダから入室している。（表2）

（表1） 小学校の日課例

	6年○組A児	3年□組B児	2年△組C児	6年☆組D児
1	体育	体育	体育	体育
2	道徳	3年□組音楽	道徳	道徳
3	算数	算数	2年△組算数	
4	6年○組図書	国語	国語	
5	6年○組理科	生活	生活	
6	児童会			

（表2） 個別の日課の例

	A児	B児	C児	D児
登校	一人で	一人で	母と	自・情障学級
朝の会	自・情障学級	自・情障学級	自・情障学級	へ直接
休み時間	自由	自由	(2年△組)	8:50母と
給食	(6年○組)	自・情障学級	自・情障学級	登校
掃除、	自・情障学級	自・情障学級	自・情障学級	10:30母
下校	一人で	一人で	祖母と	と帰宅

イ 通常の学級・行事等への参加

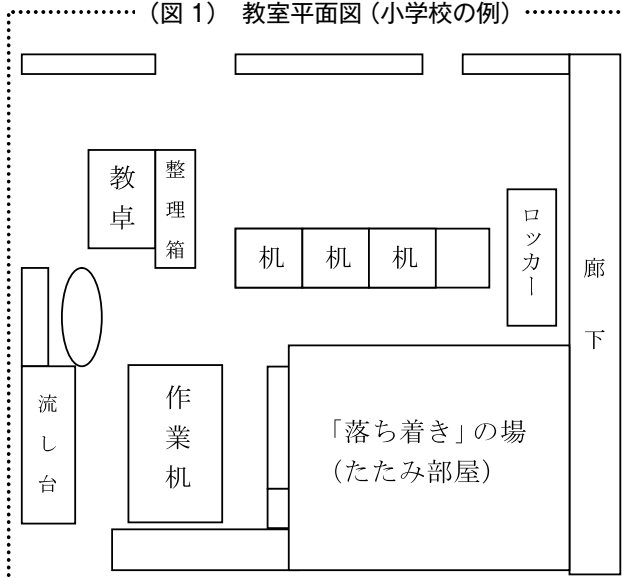
児童生徒の実態を考慮して、個別の指導計画に基づき、週ごとの時間割を作成するとよい。そのときの状態に応じて参加の仕方を変えることもある。参加の方法等については、通常の学級の担任との細やかな連携や、校内職員の共通理解が不可欠である。

② 教室環境（図1, 2）

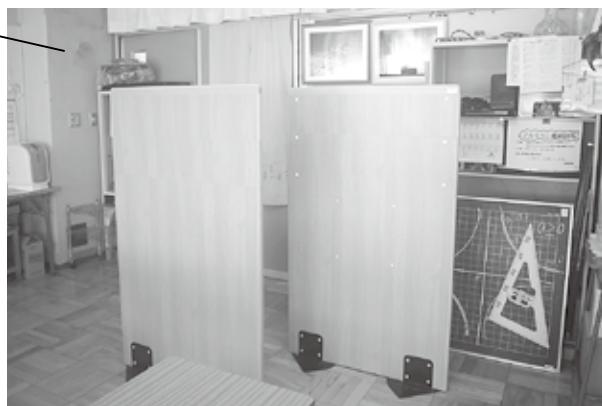
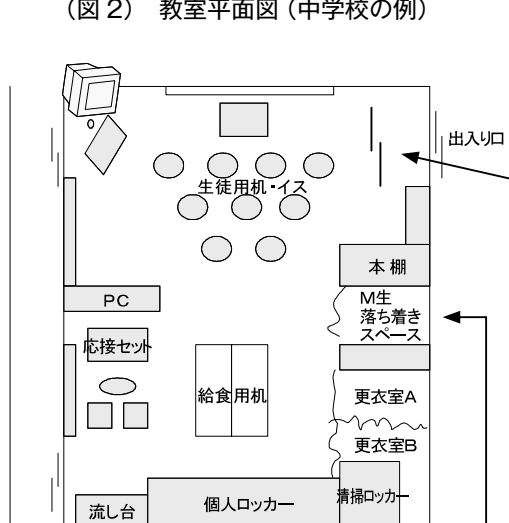
児童生徒が安心して生活できるように
教室内の環境を整備する。

- ア 1日の生活の流れがわかる教室内表示
- イ 集中力を高める座席の配置
- ウ 物の場所が分かり、準備や片付けがしやすい教室内表示（引き出し等）
- エ 「落ち着き」の場（居場所）の確保
- オ 机上や引き出し内の整理整頓
- カ 遊び道具等、きまりや約束の表示

（図1） 教室平面図（小学校の例）



（図2） 教室平面図（中学校の例）



<廊下と室内の緩衝のためのパーティション>



<クールダウンのための
落ち着きの場>

③ 学習上の配慮

ア 児童生徒の理解や進度に応じた指導を認知特性にも配慮して行う。

例 1) 書字困難→書き順や部分毎の色分け, マスの大きさを工夫, なぞり書き等

例 2) 計算困難→既習事項のていねいな確認, マス目ノート使用, 計算機使用等

例 3) 音読困難→1 行が見えるような教具, 読む量の調節, ふりがなを振る等

必要に応じて, 下学年の内容を扱う場合もある。

イ 授業の流れが分かるように, 学習内容をパターン化したり明記したりする。

国語の例) 読み聞かせ→音読→視写→プリント→漢字練習

算数の例) 四則演算の計算練習→教科書の学習→プリントやドリル

見通しがもてず不安になる場合には, 学習のパターンを決めると安心して取り組める。

ウ 集中力が持続するように, 児童生徒の実態に応じて環境や活動内容を工夫する。

例 1) 隣が気になる→机を離す, つい立てをする, 場所を変える, 別の時間割にする。

例 2) 長続きしない→課題を 10 分位ずつ変える, 静と動を学習に組み込む等

エ 授業の準備や集団で学習するためのルールを身に付ける。

授業の準備をして待つ, 忘れ物をしない, 大きな声を出さない, 勝手に立ち歩かない, 質問は手を挙げてからする等, 学習のルールを確認し学級で取り組む。

オ 見通しをもって学習に取り組むために, 終わりの分かる課題の提示や評価を行う。

「ここまでやったら終わり」「この活動をしたら終わり」が分かるようにする。また, 学習の成果が自分でも分かるように, がんばり表やシールなど活用するのも有効である。このような少しのごほうびを楽しみに, がんばれる児童生徒も多い。

カ 自己肯定感の高まりに配慮した学習の評価と定期テスト等を計画実施する。

日常生活の環境調整をする必要もあることから, 当該学年の通常の学習内容に比べて, 学習進度が遅れる場合がある。中学校では, 自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒が定期テストを受ける場合, 個々の学習した内容に合わせた出題範囲と出題内容で実施, 評価されることが, 生徒の自己肯定感を高めるためにも必要である。

④ 保護者との連携

ア 連絡帳を活用し保護者との連携を深める。

保護者と日常的に連絡帳をやり取りし, 児童生徒の姿を共有する。家庭からは, その日の身体や情緒の安定の状態や生活の様子を知らせてもらう。学校からは, その日の様子を知らせ, 必要に応じて電話連絡も行う。常用薬の飲み忘れの時などには, すぐに連絡が取り合えるようにしておく。

イ 学級通信で, 学校生活の様子を知らせる。

学校での生活の様子や, 次週の予定や行事の準備など児童生徒の様子を家庭に伝える。

子ども同士のかかわりなどが伝わるように, 内容を工夫したり写真を活用したりする。

ウ 支援の見直しのための話し合いを行う。

「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成に当たり, 顔を合わせて話し合う。必要に応じ, 関係諸機関を交えた支援会議等も開催する。

⑤ 幼稚園・保育所・関係機関との連携(入学時)

ア 継続した支援を実現するための連携を図る。

日頃から幼稚園や保育所との連絡を密にとる。必要に応じて参観等も行い, 実際に幼児の様子や成長を見守っていく。

具体的な支援の継続により, 安定した状態で入学後も生活できるよう配慮する。

イ 専門機関と連携し、支援の充実を図る。

市町村によっては、障害のある子どもたちを把握し、特別支援学校の教育相談や医療機関等とも連携して専門的に指導している場合もある。関係各機関と連絡を密に図る。

⑥ 中学校・特別支援学校中学部との連携（進学時）

ア 見学や体験入学を活用する。

卒業直前にあわてることのないように、計画的に進路指導を行う。保護者の思いに寄り添いながら、中学校や特別支援学校の中学部の説明会への参加や学校見学・体験学習を行う。次に挙げる表は小学校と中学校の知的障害特別支援学級および自閉症・情緒障害特別支援学級の連携の例である。

イ 情報の受け渡しで継続的な支援を図る。

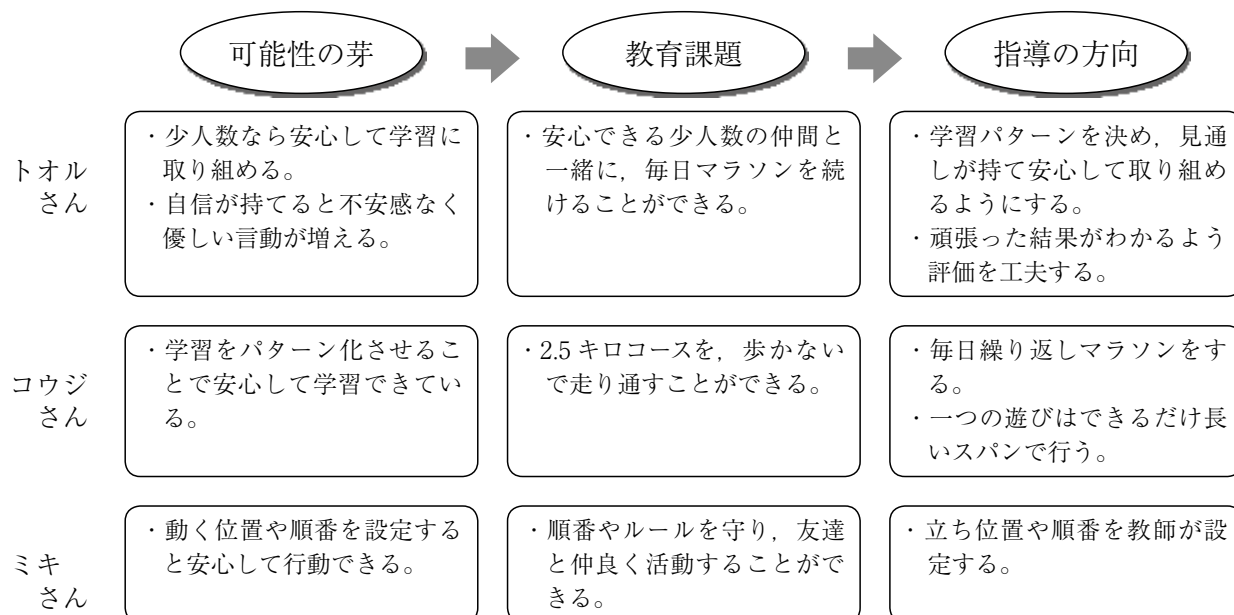
小学校から中学校への入学後、中学校卒業による進路決定後は、保護者の了解を得て、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の引き継ぎを行い、進学後、スムーズに学校に適應できるように配慮する。

① 入学予定児童・保護者の自閉症・情緒障害特別支援学級 見学会	(11月)
② 自閉症・情緒障害特別支援学級体験入学	(12月)
③ 中学校担任の小学校自閉症・情緒障害特別支援学級訪問	(1月)
④ 小・中の知的障害、自閉症・情緒障害特別支援学級交流会	(2月)
⑤ 保護者との懇談、教育課程の提案	(3月)
⑥ 関係医療機関から入学にあたっての助言を得る	(3月)
⑦ 新入生の、中学校（入学式場）下見	(4月)

(3) 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級の指導の実際

運動や集団遊びが苦手で、友だちとのかかわりが難しい3年生のトオルさんが、体力をつけ安心して体を動かすことができるようにするために、毎朝1時間目に体育の学習を設定し、マラソンや集団での遊びや運動を行うことにより、主体的に学習に向かい気力や体力を向上させていった。

① 個別の指導計画を生かした授業構想



② 学習指導案

1 単元名 「走ろう・遊ぼう」（体育）

2 単元設定の理由

青空学級は自閉症・情緒障害児特別支援学級で6年生、3年生、2年生の3人の学級である。自分のすべきことに見通しがもてると黙々と学習や活動に取り組めるコウジさん、学習意欲が高くポイントやシールなど自分のしていることが目に見える形で評価できると、それに向かい集中できるトオルさん、大人と一緒になら、ある程度の行動規制を受け入れて穏やかに学習や活動に向かえるようになってきているミキさんである。青空学級の中では、仲間意識を持ち、仲よく協力し合って生活する気持ちも高まってきている。

しかし、通常の学級や学年の中に入ると、本来持っている力を十分に出し切れないことも多い。2年生のバス遠足で、1日楽しく過ごしてきて、最後になって疲れてしまい、前向きで優しい言葉を表出しにくかった。同学年の子どもたちと一緒に活動できる体力がつけば、もっと安心して通常の学級や学年の活動や行事に参加でき、友だちと楽しく過ごす経験を積んで、今よりもっと世界も広がっていくだろうと感じた。

体力をつけ、体を使って運動する経験を積み、自分に自信が持てるようになってくると、大きな集団の中でも、本来の姿を十分に発揮する可能性が出てきそうだ。安心できる仲間と一緒に走る活動なら、難しい技能を使うことなく自分の体力に合わせて運動でき、繰り返し取り組むことで体力向上につながると考えた。さらに、走り続けることで、粘り強く取り組む気力も高められる。また、校庭の遊具を使つての遊び、ボールや飛び縄など簡単な道具を用いての運動に継続して取り組むことで、集団で楽しく運動するためのルールを体得したり、集団で遊ぶことの楽しさを味わったりすることもできる。これらは、集団活動参加の可能性を広げ、何より本人にとって大きな自信につながるだろうと考え、本単元を設定した。

3 単元目標

<各種の運動>

- (1) 少し長い距離を走り続けることができる。
- (2) 教師の見本を見て体の左右や手足の位置に気をつけながら準備運動ができる。
- (3) 円や列で並んだり号令に合わせて動いたりすることができる。
- (4) うんていや鉄棒に登ったりぶら下がったりすることができる。
- (5) タイヤをリズムよく跳ぶことができる。
- (6) 簡単なルールのあるゲームやごっこ遊びをすることができる。
- (7) 短縄や長縄を簡単な跳び方で跳ぶことができる。
- (8) ボールを蹴ったり投げたりして遊ぶことができる。

<態度>

- (9) 友だちと仲良く安全に遊ぶ。
- (10) 決まりを守り、勝敗を受け入れられる。
- (11) 意欲的に運動に向かい、最後まであきらめない。

<保健領域>

- (12) 運動後、汗を拭いたりうがいや手洗いをしたりする習慣をつける。

【トオルさん】

- ・運動を継続して行い、筋力や持久力、調整力を高める。
- ・友だちと仲良く運動することを通して、情緒の安定を図る。

【コウジさん】

- ・安心して取り組める運動に繰り返し取り組み、主体的に取り組める運動を増やす。
- ・簡単なルールのある遊びのおおよそのルールがわかり、友だちと時間いっぱい活動する。

【ミキさん】

- ・あきらめずに最後まで走り通す体力と気力を高める。
- ・決まりを守って安全に運動する習慣を身につける。

4 展開の概要

	活動内容	指導の構想
走り始める	1 「挨拶」→「準備運動」→「走る」→「その他の遊び」→「挨拶」→「手洗いうがい」というパターンに慣れる。	○毎日の日課に「体育」（自立活動を含む）の時間を位置づけ（1時間目、帯状日課）「知的障害特別支援学級」と合同で行う。 ○安全確保のため、教師二人で指導に当たる。 ○C T、S Tの役割をはっきりさせ、子どもの集中がそれないようにしたり、安全面に気をつけたりする。 ○言葉かけや指示は、わかりやすいように短くはっきり出す。 ○最初は1.5キロコースを走るようにする。
継続する	2 継続して実施する。 (4月～)	○雨天時以外は毎日実施する。継続して行うことで、子どもたちが「毎日走るんだ」と理解できるようにする。 ○子どもと一緒に走りながら、歩かないで走り続けることを伝えていく。 ○走り切れたことを認め称賛する。 ○走り終えたらがんばり表に一人1枚シールを貼る。 ○「50ポイント」ためたらお楽しみタイムを設定する。



楽しみを見出す	3 長い距離を走る。 (5月～)	○走り通せるようになったら距離を2.5キロにのばす。 ○走り終えたら頑張り表に一人2枚シールを貼る。
	4 いろいろな遊びや運動に挑戦する。	○「校庭遊具遊び」「縄跳び遊び」「ボール遊び」「ごっこ遊び」等、子どもの状態を見ながらいろいろな活動に挑戦できるようにする。(毎日変えるのではなく月単位など長い期間で取り組む。) ○遊びの内容を少しずつ変更していく。
ステップアップ	5 新たな遊びや運動に挑戦する。	○主体的な動きや前向きな言動が出てくることを期待して継続する。 ○様子を見て、通常の学級の体育の授業にも参加してみる。 ○遊びや運動の中身をスモールステップで上げる。 ○できるようになったことを認め励ましていく。

5 指導上の留意点

- ・マラソンの時、転倒しやすい児童や注意のそれやすい児童から目を離さない。
- ・遊具遊びをするときは、教師の立ち位置や児童の待ち位置など、安全第一に考え指導する。

6 本時の指導計画（本時案）

(1) 主 眼

4月からマラソンコースを走り続けている子どもたちが、2.5キロのマラソンコースを走ることを通して、運動する心地よさを感じながら走る力を高める。また、鉄棒、うんてい遊びをして、楽しみながら筋力を高めたり、集団で運動するためのルールを身につけたりする。

＜トオルさん＞黙々と走り通したり、うんていの上で大の字に立つことに挑戦したりすることができる。

＜コウジさん＞いつものように走ったり遊具遊びをしたりすることを通して、前の日同様に走り通したり、前日の「うんてい10秒ぶら下り」より長くぶら下がれたりする。

＜ミキさん＞一生懸命走ったり友達と遊具で遊んだりすることを通して、友だちと仲よく運動することができる。

(2) 本時の位置（全105時間中第99時）

前時：うんていにかかわる運動で、前々日より立つ位置やぶら下がる時間が向上した。

次時：本時、うんていの上に上れなかった子どもたちが、少しでも上ってみる。

(3) 指導上の留意点

- ・全ての子どもに目が届き、対処できるように走る位置や役割を決めておく。
- ・鉄棒の補助器具を扱うときは、転倒しないよう必ず教師がつく。

(4) 展 開

	学習活動	予想される子どもの反応（○）と支援（△）	評価（☆）	時	備考
導 入	1 あいさつ	○挨拶の円を描き運動体形を整える。		5分	
	2 準備運動	○教師の号令で行う。 トオルさん ○注意がそれて、円から離れてしまうだろう。 △気持ちが向くように名前を呼んで促す。			

		ミキさん ○張り切って大きなかけ声をするだろう。 ☆走ったり遊んだりするのに必要な部位の準備運動ができているか。		
展 開	3 マラソン (2. 5キロコース)	△間隔がとれないところは立ち位置を示し、動きを教師も示範する。 コウジさん ○隣の人とくっついて並ぶだろう。△立ち位置を記しておく。 △S Tが前方、C Tが後方に位置する。 トオルさん ○追いつかれないようにC Tの位置を見ながら走るだろう。 △C Tのスタートは20秒数えてから。あおりすぎないように10秒後方を走る。 ミキさん ○何らかの理由で、走るのを止めるかもしれない。 △「どうぞ」と手で促し、後ろについて走る。 △S Tは距離の短い児童と一緒に走り、先にゴールで他の子どもの様子を見守る。 △C Tは、子どもたちの安全を確認しながら最終走者の後ろを走る。 △がんばり表とシールをあらかじめ用意しておき、走り追えたら一人2枚シールを貼るようにする。 ☆精一杯走り通すことができたか。	20分	がんばり表 シール
	4 校庭の遊具遊び (1)鉄棒で補助器具を用いて逆上がり (2)うんていで四這い歩きやぶら下がり	△逆上がり補助器具を設置する。 △器具は動かないように教師が乗り固定する。 △一人ずつうんていの上に登り四つ這いで移動するように流れを作る。 ミキさん ○鉄棒に親指をかけないで握るだろう。 △順手で鉄棒を握るように声をかける。 トオルさん ○うんていの上をスムーズに移動し、前日より高い位置でよい姿勢で立つだろう。 △子どもたちと一緒に秒数を数え、前日より長い時間に挑戦できるよう意識を高める。 コウジさん ○「怖い」と言って上には上らないだろう。 △ぶら下がりを促し12秒ぶら下がることを提案する。 △危険のないようにS Tはすぐ後方から、C Tは前方から見守る。 △前日より立つ位置が高くなったり、立ったりぶら下がったりする時間が長くなったりすることを目標に声をかける。 ☆前日より立ち位置が高くなったり、立ったりぶら下がったりする時間が長くなったりしているか。	15分	逆上がり補助器具
ま と め	5 感想発表 6 あいさつ	△一人一人に声をかけ全員が発表できるようにする。 △がんばった様子を紹介する。 ☆明日への意欲が高まったか。	5分	

7 教材研究

『マラソン』

- ・克服的な運動であり、気力や体力の向上が期待できる。
- ・続けることで、心肺機能が向上する。
- ・自分の運動レベルや体調に合わせて、運動の速さや量を調節することができる。
- ・道具を使うような細かい調整力を必要とせず、基本的な運動で取り組みやすい。
- ・距離や時間など、目標を設定しやすい。

『鉄棒』

- ・握ってぶら下がったり、上ったり、足をかけて逆さまになったり、回ったり揺すったりと、発達の段階や運動能力に応じて運動を変化できる。
- ・逆さまになったり回ったりすることで、自分の体の傾きや位置を体感できる。
- ・握力や腕力、全身の筋力の向上が期待できる。

『うんてい』

- ・ぶら下がったり上ったり、移動したりすることができる。
- ・少人数なら全員でその運動を楽しむことができる。
- ・楽しみながら、筋力を向上させたり、調整力や体力の向上が期待できる。
- ・ぶら下がり競争やじゃんけんゲームなど、友だちとかかわって遊ぶこともできる。

③ 授業の様子～トオルさんの姿から～

- ・安心して活動できていた。声をかける前に次の活動に進んでいく様子が見られた。このような状態の時は、トオルさんは自信を持って主体的に活動し、教師の声かけは必要ない。
- ・うんていの中央に立てるようになった。10秒数えて四つ這い姿勢に戻った。直立している時間が長くなるように、具体的な目標を持って取り組めるようにしていくとよいだろう。
- ・マラソンをするとき、集団の前方に位置し黙々と走り続けている。2.5キロコースを多少の余裕を持って走る体力と気力がついてきていると思われる。

④ 成果と課題

ア 成 果

- ・初めは1.5キロコースを途中で歩いてしまっていたトオルさん。距離を長くしても、走り続けるうちに、最後を走るCTに差をつけて走れるようになっていった。次第に体力がついて、体が引きしまり肥満度も下がった。
- ・毎日のマラソンで、日課が安定したことで、一日の生活の見通しが持ちやすいようだった。
- ・一時間の活動の流れを整えたことにより、「始め」と「終わり」がはっきりし、安心して運動に取り組んでいた。
- ・運動会では、かけっこや学年の表現運動の練習にも参加することができ、本番も堂々とした姿を披露できた。学年の仲間と体を動かすことができる体力や気力が高まってきている。
- ・1年生のマラソン大会では、不安定になり走らなかった。2年生の時はほとんど歩いての参加だった。3年生の今年は「ビリにはならない」という目標を立て、「無理」と言いながらも参加し、約束を果たし得意げな表情で帰ってきた。目標を果たした喜びと安心感は大きく、大きな自信を得たと思われる。

イ 課 題

- ・マラソンは1年間継続して行う学習活動である。意識がとぎれないよう子どもの様子を見ながら活動に変化を持たせることが必要である。
- ・小さな変化も見逃さないように子どもの動きをしっかりと観察するようにする。
- ・教師間の情報交換を行い、子どもの状態を共有し、よりよい支援ができるように心がける。
- ・「なかよく学習する（遊ぶ）」には、譲り合ったり順番を守ったりすることができるような社会的スキルの体得が必要になる。体育の学習の中でも、自立活動を意識して取り組むことが大切である。

⑤ 個別の指導計画

「教育課題個人 (A) 表」 トオル (3年・男)

生育歴・諸検査・連携の記録など

<家族構成>

父、母、妹（年長）、本人の4人家族。主に母が養育している。

<諸検査>

WISC-Ⅲ 全IQ〇〇 言語性IQ〇〇 動作性IQ〇〇 (H〇〇実施) 言語性IQと動作性IQの開きが大きい。

教研式知能検査ISS

<診断等>

ADHD、情緒不安定と診断を受けている。病院の集団OT訓練を月1回実施している。

<服薬等>

朝コンサータ服用している。夜、抗うつ剤を服用している。

日常生活の姿

<学習>

- ・机上学習に意欲的に真面目に取り組んでいる。
- ・学習の成果をポイント化すると、さらに意欲をもって努力する。
- ・気持ちを込めて音読することができる。象形文字のような独特の字形になる。
- ・道具を使って図形を描いたりものを制作したりするとき、繰り返し練習することで扱いが上手くなる。
- ・自転車に乗ったり、鬼ごっこをしたりすることができるようになった。

<生活・行動>

- ・新しいこと、難しそうなことに對し、「無理」と決めてやろうとしないことが多いが、一度経験すると、次はスムーズに取り組める。
- ・通常の学級ではやろうとしないことでも、特別支援学級の友だちとならでできることもある。
- ・時間に遅れたり予定が変わったりすることを嫌う。いつものパターンだと安心できる。
- ・何でも片付けるときに入れる整理箱を利用している。

<コミュニケーション>

- ・大人とは安心してかかわることができる。
- ・自分ができると分かることは、友だちに優しく教えようとしている。

可能性の芽

- ・「できる」という経験を積み自信を持つと、不安感が減り、優しい言葉が増えるかもしれない。
- ・机上学習に集中して意欲的に取り組めるので、学習の面では自信が持て自己肯定感を高められそうだ。
- ・小集団の中で少しがんばればできるような課題なら、安心して取り組めるだろう。

願 い

【本人の願い】

科学者になりたい。

【保護者の願い】

色々な経験をしできることを増やして欲しい。

【担任の願い】

新しいことにも勇気を出して挑戦し、できることを増やして欲しい。

【将来の姿】

中学校に進学。個別支援を受けながら生活し、集団の中で活動できることが増えていく。

教育課題

☆少人数の集団の中で「できる」という経験を積み重ねながら、学年や学級の活動に、安心して参加できるようになる。

【心理的な安定(1)】 【人間関係の形成(4)】

・目標の学習ポイントがたまるのを目標に、約束を守り一生懸命学習に取り組む。

☆少人数で安心できる仲間と一緒に、毎日マラソンを続けることができる。

【身体の動き(1)】 【人間関係の形成(3)】

指導の方向

- ・具体的な活動目標を立て、自分のすべきことがわかるようにする。
- ・学習パターンを決め、見通しがもて安心して取り組めるようにする。
- ・がんばった結果が自分でわかる評価の仕方を工夫し、主体的に取り組めるようにする。
- ・少人数で「できる」自信をつけ、少しずつできる場を広げていく。
- ・スモールステップで課題に取り組み、できる活動を増やしていく。
- ・新しいことに向かうときは、事前に知らせたり練習したりするなど、不安感を減らす生活作りをする。
- ・学習の目標ポイントは1000ポイントに設定し、長い時間かけて取り組めるようにする。

「指導内容の選択・組織（B）」

トオル（小3）

各教科等	指 導 内 容
国 語	（三学年の内容に準ずる）
社 会	（三学年の内容に準ずる）
算 数	（三学年の内容に準ずる）
理 科	（三学年の内容に準ずる）
音 楽	・ みんなと一緒に歌ったり，一人で歌ったりする。 ・ 旋律楽器（鍵盤ハーモニカやリコーダー等）に親しみ，簡単な曲の演奏をする。 ・ 知っている歌，好きな歌，歌える歌の範囲を広げる。
図画工作	・ はさみやのりを使って，はり絵や工作をする。 ・ 版画（紙やスチレン）で，表現したい物を表す。 ・ 牛乳パックや布を用いて，相手を意識した作品の制作をする。
体 育	・ やや長い距離を走る。 ・ ボールをついたり投げたり蹴ったりして遊ぶ。 ・ 遊具を使ってぶら下がったり，よじ登ったり飛び降りたりする。
道 徳	・ 時間や決まりを守って生活しようとする。 ・ 友だちと仲良くし，協力し合って生活する。 ・ 状況や相手の気持ちを考え行動しようとする。 ・ 寛容の心を育む。
特別活動	・ 当番活動や委員会活動を責任もって行う。 ・ 毎日の掃除を進んで行う。 ・ 話し合いでは，自分の考えを挙手し言葉にして発表する。
総合的な学習の時間	・ 通常の学級，学年，児童会の縦割り班や中学校区の学校の二校交流，大正琴の楽団，居住地校交流等，様々な交流の場で，気持ちを落ち着かせて活動する。 ・ 制作，販売の活動に進んで参加し，できることを増やしていく。 ・ 様々な人とのかかわりの中で，場に応じたコミュニケーションの力を培っていく。
自立活動	・ 集団の中で，苦手な場面で不安感を示すことが少なくなる。 [心理的な安定（1）][人間関係の形成（1）（3）] ・ SSTや日常生活全般を通し，場に応じた言動がとれるように練習を積み重ねる。 [人間関係の形成（1）（3）] ・ 集団のルールを少しずつ体得し，相手の指示を受け入れて行動する。 [人間関係の形成（3）（4）] ・ 少人数の仲間と3，4年のマラソンコースを毎日走り続ける。 [身体の動き（1）][人間関係の形成（3）] ・ 不安な気持ちを，それにふさわしい言葉と態度で伝える。 [人間関係の形成（3）][コミュニケーション（5）]

※ 指導の形態として，各教科等の授業を行っている場合には，指導内容の選択（B－①）と組織（B－②）は，まとめて1枚の用紙に記述するなどしてもよい。

年間指導計画（C表）

〇〇小学校自閉症・情緒障害児特別支援学級 年間指導計画

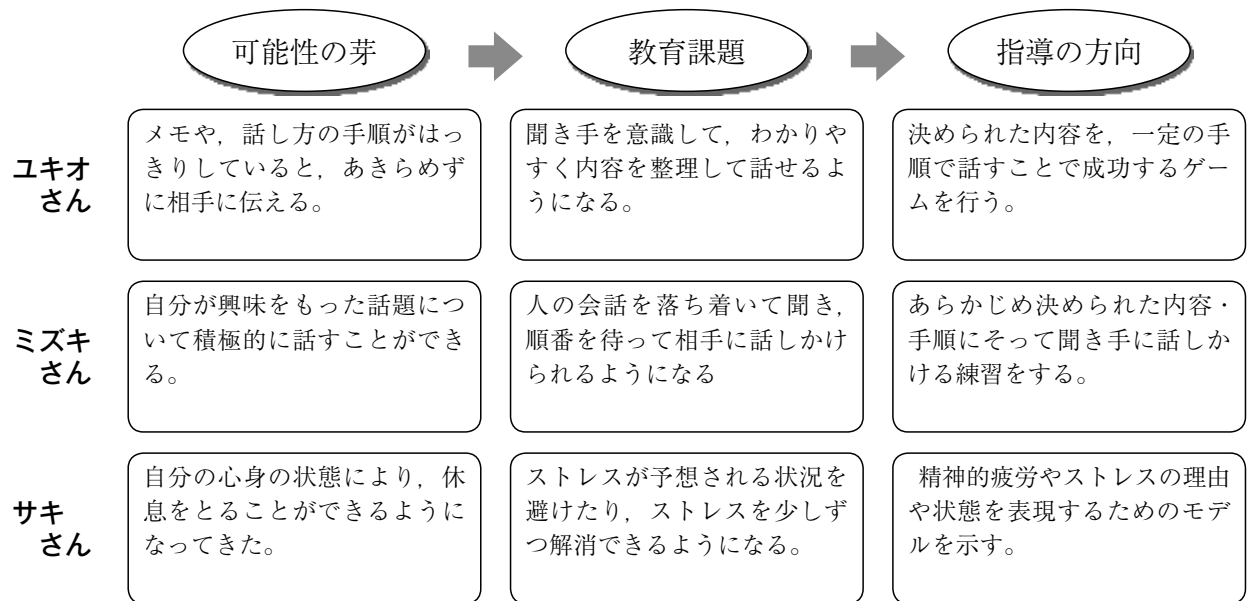
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式（4） 始業式（4） 1年迎える会 家庭訪問	参観日 遠足（22）	音楽鑑賞 PTA作業 全校参観日 （28）	個別懇談 6年海の家 3校キャンプ （19,20）	夏休み 7/30～8/18 エイエイオー の会（ ）	PTA作業 運動会 （21）	終業式（3） 始業式（7） 就学相談	校内音楽会 （7） マラソン大会 （28）	個別懇談 3校交流 お楽しみ会 （24）	冬休み 12/27～1/7 交流参観日 （24）	中学入学 説明会（9） 参観日	社会見学（3） 6年生を送る会 終業式（18） 卒業式（19）
総合的な 学習の時間	＜青空農園＞ 畑作り カブトムシツアー 畑の世話 野菜の収穫 ＜交流＞ 居住地校交流（○さん、□さん）シャボンの会（石鹸作り） 3校（○○小、△△小、□□中）交流 楽団青空（音楽会合同演奏） ＜手づくりやさん＞製品作り 第1回販売活動（先生方対象） 製品作り クッキー作り（計画・買い物・調理） 第2回販売活動（地域対象） 社会見学											
教科	国語	（全体で）絵本等の読み聞かせ 音読（それぞれの学年の教科書教材） 視写・聴写 漢字練習 ※学習のパターンを作り主体的に取り組めるように コウジ・・・下学年対応 トオル・・・漢字の書きと作文指導にかかわり丁寧な支援 ミキ・・・書きと読み取りにかかわり丁寧に支援										
	算数	（全体で）計算（四則演算）マラソン それぞれの課題に向かう コウジ・・・ドットや計算機など使い正しく計算できるようにする 時計が読めるようになる トオル、ミキ・・・それぞれの学年の内容を行う										
	生活	コウジ（理科）通常の学級の授業に参加（社会）日本地図の学習と世界地図の学習 地域探検と地域の公共施設や公共機関の利用 トオル（理科・社会）通常の学級の授業にも参加 教科書やTV、ビデオ等を用いて学習意欲の喚起と定着 ミキ（生活）通常の学級の授業に参加										
	体育	特別支援学級合同の体育（1時間目に設定） 準備運動とマラソン・・・年間を通して継続 校庭遊具遊び 水泳 畑での活動とニョキニョキ体操 運動会の練習 鉄棒 なわとび ルールのある遊び（鬼ごっこ等）										
	図工	はり絵、刺し子、紙工作、折り紙、水彩画など季節感を味わえるようにして行う。 特別支援学級合同の図工 市内お祭りランタンの絵 アイロンビーズの作品作り カレンダー作り										
音楽	コウジ、トオル・・・主として通常の学級で参加 特別支援学級合同の音楽 雨天時の1時間目に設定・・・音楽会の練習を積み重ねる（歌、楽器演奏） 来年の音楽会に向けての練習											
家庭	コウジ・・・主として通常の学級の授業に参加（制作等、青空学級で個別の支援を行う）											
道徳	友だちと仲よく わがまを言わないでがんばる 自分のこと家族のことを考える よいところをみつめる 卒業を祝う											
特別活動	学校学年行事は、通常の学級に入り参加する（コウジ トオル ミキ）。クラブ・児童会に通常の学級の友だちと一緒に参加する（コウジ）。 学級活動・・・青空学級で係当番活動を行う。通常の学級に行ったときはできる範囲で参加する。掃除・・・青空学級のぞうきんがけをする。 トオル・・・集団の中で、苦手な場面で不安感を示すことが少なくなる。「心理的な安定（1）」[人間関係の形成（1）（3）]・SSTや日常生活全般を通して、 場に応じた言動がとれるように練習を積み重ねる。「人間関係の形成（1）（3）」・集団のルールを少しずつ体得し、相手の指示を受け入れて 行動する。「人間関係の形成（3）（4）」・少人数の仲間と3、4年のマラソンコースを毎日走り続ける。「身体（1）」[人間関係の形成 （3）]・不安な気持ちを、それにふさわしい言葉と態度で伝える。「人間関係の形成（3）」[コミュニケーション（5）] コウジ・・・生活の見通しをもつことで安心して取り組む。「心理的な安定（1）（2）」 不安な気持ちを言葉で伝える（「助けて」「いや」）。「コミュニケーション（5）」[心理的な安定（2）] ミキ・・・自分の行動や気持ちのコントロールができるようになる。ルールを守って生活し、適切な言動がとれ、友だちと仲よくかわる。「心理的な安定（1）」 [人間関係の形成（3）（4）] [コミュニケーション（5）]											
自立活動	※全ての教育活動にわたり自立活動を計画的に組み込む。 ※特に年間通して1時間目に行う特別支援学級合同体育では、自立活動を意識して活動を展開する。											

Ⅱ 章

(4) 中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級の指導の実際

ユキオさんは、話している最中に急に話題が変わったり、相手が知らないことを一方的に話したりする。また、うまく話せないと「うん、まあいいや、ごめん」とあきらめたりすることがある。ソーシャルスキルトレーニングでは、ブロックを使って手元が互いに見えない相手に形を伝え合う活動を通して、話す順番や内容をはっきりさせる支援をし、聞き手の立場に立って分かりやすく話すことができるようになった。

① 個別の指導計画を活かした授業構想



② 学習指導案

1 題材名 「テーマにそって話そう ～ブロックでコミュニケーション～」 (自立活動)

2 題材設定の理由

ユキオさんは、急に話題が変わったり相手が知らないことを一方的に話したりする。また、うまく話せないと「うん、まあいいや、ごめん」とあきらめたりすることがある。しかし、話す順番で内容をまとめたメモがあると、聞き手にわかりやすく話すことができる。

そこで、決められた内容を、一定の手順で話すことで成功するゲームを行うことによって、聞き手を意識して、わかりやすく内容を整理して話すことができるようになると考えた。ミズキさんは、「興味あるゲームを成功させるために、順番を待って決められた手順で話ができるようになる」また、サキさんは、「自分でブロックの数を変えてゲームの難易度を調整することができるようになる」と考え、この題材を設定した。

3 目標

○言葉で正確に情報を伝えられるようになる。

○相手を意識して聞く、話すことができるようになる。

・ 決められた手順で、聞き手に理解しやすい内容、順番に整理して話すことができる。

(ユキオ)

・ 決められた手順の形に当てはめて、聞き手にわかりやすく話すことができる。

(ミズキ)

・ ブロックの数や出題方法を変えることによって自分の話し方を工夫することができる。

(サキ)

4 展開の概要

段階	活動内容	時 数
導入	ねらい「言葉で正確に情報を伝える」の確認をする。 教師が伝達係，生徒が全員組み立て係になって練習する。	1 時間
展開	二人組で，「伝達係」「組み立て係」に分かれ机を向かい合わせて つい立てを置く。伝達係には組み立てたブロックを，組み立て 係には同じブロックの部品を配り，伝達係の説明で組み立てる。 答え合わせをする。 ブロックを室外に置き，伝達係はそこまで見に行って教室内の組 み立て係に伝える。答え合わせをする。	1 時間 1 時間
般化	日常生活でのスキルの発揮・定着を進める。	日常場面

5 指導上の留意点

- (1) 導入段階の練習の様子で，ブロックの個数や色を調整していく。
- (2) 伝達係は組み立て係と左右，手前・奥行きが逆転する。言い換えが難しい生徒には，逆向きに矢印を示した画用紙を手前に置いて支援する。

6 本時案

(1) 主眼

決められた内容を，一定の手順で話すことができる生徒が，伝達係と組み立て係に分かれてブロックの伝達を行うことにより，言葉でより正確に情報を伝えることができるようになる。

- ・示範された手順を参考にして，ブロックの位置を言葉で説明できる。(ユキオ)
- ・手順のカードに言葉を当てはめて，ブロックの位置を分かりやすく説明できる。(ミズキ)
- ・友達の伝え方を参考にして，より確実な分かりやすい言い方を工夫して出題できる。(サキ)

(2) 本時の位置 3時間扱いの2時間目

前時：先生が伝達係，生徒が全員組み立て係になってゲームの練習をした。

次時：二人組のペアを組み替えたり，室外にあるブロックを見て組み立て係に伝える。

(3) 展開

展 開	学習活動	予想される生徒の反応(○)と支援(△) 評価(☆)	時間	備考
導 入	1 ウォーミングアップする	T「あとだしジャンケンをしましょう。」 ○慣れた活動を楽しんで行うだろう。 △ゆっくり大きなジェスチャーで説明する T「残った人から順に，今日の出題者になります」	5	
	2 ブロックでコミュニケーションの活動をする ①今日の出題と解答の方法を聞く	○出題者（伝達係）になることで，「今日はどんな問題かな」「うまく伝えられるかな」など期待・不安を示すだろう。 △ゲームの方法を説明する。 ・出題者と解答者が向かい合う ・出題者と解答者の間に衝立を立てる ・出題者と解答者の右・左と手前・奥が逆になることを図版で説明する	35	・「逆」の意味が分かりにくい生徒のために，図版を用意しておく。

②交代で出題する

△練習問題に必要なブロックを配る。
△手元が必要なブロックだけになったか確認する。

T「最初の出題者は、私の横で主題の言葉をブロックを見ながら聞いてください。」

解

答

者

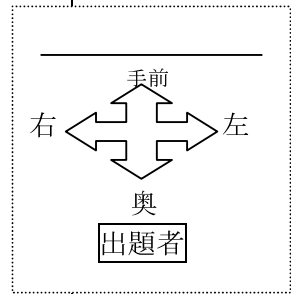
出題



T「まず使うブロックは、緑と黒と青です。緑を縦長に置きます。その手前に黒を横長に置いてL字型をつくります。」
△つい立てを外して、出題者と同じ形が同じ向きにでき上がったか確かめるよう声がけをする。
○同じ形にできあがってよろこぶだろう。
△交代で出題者になってみるように指示する。伝え方が分からなくなったら（伝え方カード）（手順のカード）を見るように言う。
○楽しんでやるだろう。
○ユキオさんはブロックの数を増やしたいと言うだろう。
△1回目は4個のブロックで。2回目以降はブロックを1個ずつ増やしてもよいことを伝える。

☆言葉で正確にブロックの位置を伝えることができたか

○ミズキさんは、手前・奥・左右が混乱するだろう。
△左右・手前・奥で困っていたら、図版を出題者の机の上に置いて説明するよう伝える。
○ユキオさんは、手順が入れ替わるだろう。



（伝え方カード）
解答者

（手順のカード）

- ・まず使うブロックは●と○と△です。
- ・●を（横・縦）長に置きます
- ・次に・・・・・・・・

・ 出題者が指さしで言わないように注意する。

		△手順のカードを見せながら，声に出して読んでみるよう指示する。 △つい立てを外して，出題者の形と同じにできているか確かめるよう指示する。		
ま と め	3 感想発表する 4 次回の内容を 確認する	△手元のブロックを片付けるよう伝える。 △出題者になって説明するとき難しかったことを聞く。 ○「左右，奥・手前を逆に言うのが難しかった。」 (ミズキ) △どんな伝え方が作りやすかったかを聞く。 ○「ひとつのブロックを組み立て終わるまで，次の説明を待ってくれた時です。」(ユキオ) T「誰の出題，説明の仕方が分かりやすかったでしょう。」 ○「ユキオさんの説明は丁寧でよかった。」(サキ) ○「この次はもっと数を増やしてやりたいな。」 (ユキオ) △次回は，1対1で行うことを伝える。	10	

7 教材研究

領域	テーマ	活動	ねらい
言語による コミュニケーション	テーマに沿って話す わかりやすく話す 質問する	人間で知恵の輪 図形の伝達ゲーム ブロックでコミュニケーション	位置関係や動作の言葉を正確に話す 情報を収集し，整理する 言葉で正確に情報を伝える
自己・他者の認知	自己の長所を知る 他者の性格・特徴を知る	セルフポスター いいとこさがし	自己の長所を整理する 他者を肯定的に評価する
集団への参加	広い場所で相手の動きに合わせる	ハンカチ落とし 新聞でリレー	ルールを理解し，守る 他者を意識し，動きを合わせる

③ 授業の様子

ユキオ（出題者：1回目：ブロック4個）	ユキオ（出題者：2回目：ブロック5個）
① まず黒を真っ直ぐ置いて。 ② あっ，使うのは黄色と黒と黒の長いのと緑。 ③ 長い方を真っ直ぐ置いて。あっ，黒ね。 ④ 左端を。あっ，違う。右端をそろえて，黒の短いのを上に重ねて緑はその隣ね。 ⑤ 最後に黄色は緑の上ね。 ＜結果＞2名成功 3名失敗	① 使うパーツは大きな赤い板のブロックです。 ② 長い黒，赤，青，半分の高さの緑です。 ③ 最初に赤い大きな板を，縦長に置きます。 ④ いい？ ⑤ 次に，赤い板の一番奥に横長に黒を置きます。 ⑥ 赤い板の奥の長さで黒は同じ長さで重なった。 ⑦ その黒の右端に赤をのせて。今3階建てね。 ⑧ 赤の上に，ぴったり重ねて青を置いて4階建て。 ⑨ 残った緑は，赤い板の一番手前，左端に置きます。 ＜結果＞4名成功 1名失敗

④ 成果と課題

- ・ 1 回目にリーダーによる「うまい説明のモデル」が示されたことで、2 回目には説明の順番の工夫により分かりやすくなり、内容も回答者の立場に立った説明が増えた。
- ・ 翌朝、話し始めるときの聞き手の分かりやすさを意識した話し方をする場面が見られた。
- ・ 左右、手前・奥の言い換えが苦手な生徒には、解答者と同じ方向を向いての出題を認める特別ルールがあってもよいと思われる。

<般化の姿>

- ・ 翌週の給食時

ユキオ：先生，ケンカがさあ，すごかったんだよね。

T ：ブロックのときみたいに，最初に「何について話すか」教えて。

ユキオ：あ，そっか。えーと，昨日の夜，妹とケンカした話，していい？（内容の整理）

- ・ 放課後の漢字練習で

ユキオ：先生，この字なんて読むんだっけ？

T ：どの字ですか？

ユキオ：この右下・・・あ，えっとね，先生から見て左上のこの字。

（相手の立場で話す）

- ・ 次の課題として，教師の質問や促しがなくても聞き手を意識した発話ができるように，話し始めの定型を使えるような指導が必要と思われる。

⑤ 個別の指導計画

「教育課題個人表 (A)」

3年 氏名 ユキオ

生育歴・諸検査・連携の記録など

生育歴：

- ・小学校3年 ADHD アスペルガー症候群の診断
- ・小学校6年 両親、担任、コーディネーターが懇談 中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の様子を話し入級についての理解を得る。

家庭環境：

- ・祖父母、父、母、妹、妹

諸検査：

- ・WISC-III VIQ〇〇 PIQ〇〇 FIQ〇〇
- 視覚・聴覚による小さな刺激で、注意が奪われてしまう。
- いらいらや時間の切迫によりパニックを起こしやすい。

日常生活の姿

＜学習＞

- ・学校で時間を確保すると、なぞり書きや、漢字練習の課題に取り組むことができる。
- ・1ページ1課題に編集し直した数学の教科書を使って、学習に集中できる時間が長くなった。
- ・定期テストでタイムタイマーを使うようになってから、焦ることがなくなってきた。

＜生活・行動＞

- ・腕時計に一日の予定を自分でプログラムして、アラーム機能で次の行動に移ることができるようになってきた。
- ・知恵の輪や、好きな工作で、休み時間を過ごしたり、気持ちを落ち着かせたりすることができる。

＜コミュニケーション＞

- ・自閉症・情緒障害特別支援学級や通常の学級の友だちの長所を話題にして話すことが多い。
- ・紙に書き出すと、話したいことを、聞き手に分かりやすく伝えることができる。

可能性の芽

- ・腕時計やタイムタイマーを使って、時間の区切りを分かりつつある。
- ・話す順番に内容をまとめたメモがあると、自信をもって相手に伝えようとするだろう。
- ・1ページ1課題に整理した教科書や課題プリントを使うと、集中して取り組む姿が見られる。
- ・自由曲線のなぞり書きや、部分の分解・構成をしたプリントでの漢字練習では、集中して、読みやすい文字を書くようとしている。

願 い

- 本人の願い
 - ・落ち着いて勉強できるようになりたい。
 - ・勉強したことが、テストでも答えられるようになりたい。
- 保護者の願い
 - ・本人の「落ち着ける場所」を、特別支援学級に確保したい。
- 教師の願い
 - ・生活や学習に見通しが持てるように支援し自分から判断して行動できるようになって欲しい。
- 卒業後の姿
 - ・自分のペースで学習できる進学先を選んで自信をつけて欲しい。

教育課題

- ・テストや課題プリントの解答欄に、筆圧が高く整った読みやすい文字が書けるようになる。
- ☆自分なりに時間の区切りに気づくことができる方法を使うことや、周囲に促されることで、安心して次の行動に移ることができるようになる。
[心理的な安定(2)] [人間関係の形成(3)]
- ☆聞き手が分かりやすいように内容を整理して話せるようになる。
[人間関係の形成(4)] [コミュニケーション(5)]

指導の方向

- ・朝の課題（なぞり書き）、放課後の宿題（漢字練習）で、繰り返し書く活動を行う。
- ・朝の活動で、一日の予定を腕時計にプログラムして、次の行動への気づきをうながす。
- ・学習では、1ページ1課題のプリントを使って、集中力を高めるとともに、スモールステップで理解を進め、自己肯定感を高めていく。
- ・伝達ゲームなど一定の手順で話すゲームを取り入れて、話の内容が相手に分かりやすく伝わるような活動をするゲームを行う。

「指導内容の選択・組織（B）」

中学校

3年 氏名 ユキオ

各教科等	指 導 内 容
国 語	
社 会	教科の年間指導計画による (教材や課題の工夫により通常の学級と 同内容での学習が可能) ・書字の負担を軽減するため、要点をまとめたメモを用意する。 ・数学は、教科書の内容を1項目1ページに編集し直したものを用意する。 ・学習の進度に合わせて、問題の差し替えをする。
数 学	
理 科	
外国語	
音 楽	教科の年間指導計画による（通常の学級の授業に出席）
美 術	形の対称や繰り返しの面白さを工夫して表現する。 木や竹、プラスチックなどいろいろな素材の性質を考えて作る。
保健体育	視覚や聴覚への刺激に反応して決まった動作をする。 体操を曲に合わせて行う。 学年のクラスマッチ種目の練習をして、通常の学級のチームでも練習する。
技術・ 家庭	作業に必要な道具や工具を安全に使う。 分からないことについて、質問をして作業をする。 不必要な手出し・口出しをしない。
道 徳	学年の指導計画による（通常の学級の授業に出席）
特別活動	A学級活動：通常の学級の活動（チョークの補充、加湿器の管理など） A学級活動：特別支援学級の活動（教科の係、水槽の管理など） B生徒会活動：通常の学級で選任された委員会に所属 C学校行事 ①儀式的行事：通常の学級で参加 ②学芸的行事：通常の学級で参加 ③健康安全・体育的行事：通常の学級で参加 ④集団宿泊的行事：通常の学級で参加、まとめや旅行記は特別支援学級で指導 ⑤勤労生産・奉仕的行事：通常の学級で参加
自立活動	・注意・規制・失敗等による興奮を静める場所を相談して決め、自分で移動し、戻ることができるようにする。 [心理的な安定（1）][人間関係の形成（2）] ・腕時計のアラームを利用した方法で、次の行動に移る練習をする。 [心理的な安定（2）][人間関係の形成（3）] ・ゲームを通して、聞き手を意識した話し方を身につける。 [人間関係の形成（4）][コミュニケーション（5）]
総合的な学習 の時間	・学校農園での栽培、収穫、販売 ・校外学習の計画と事前学習、実施 旅行後のまとめと情報発信 ・学区の小学校特別支援学級との交流会

※ 指導の形態として、各教科等の授業を行っている場合には、指導内容の選択（B－①）と組織（B－②）は、まとめて1枚の用紙に記述するなどしてもよい。

4 交流及び共同学習

(1) 交流及び共同学習の意義と指導上の配慮点

① 日常の交流及び共同学習を大切に

ア 特別支援学級からの発信を大切に

交流及び共同学習を推進するに当たっては、周囲に理解を求めるだけでなく、まず特別支援学級を開かれた学級にしていくことが大切である。学校の職員に対しては、特別支援学級でどんな学習をしていてどのような成果が得られているのかなど、情報を提供する機会を多く持っていきたい。職員会で話題を提供したり、児童生徒の作品を見てもらったりしながら、まずは職員の理解を広げておくことが必要である。

次に児童生徒に向けての発信である。特別支援学級で制作した作品などを廊下や教室内に掲示して活動の様子を見てもらうことが考えられる。写真も併せて掲示していくと、活動の姿が分かりやすいが、理解を広げていくことの意義を保護者と十分に確認し、写真を掲示する了承を得ておくことが必要である。在籍している児童生徒の希望を確認しながら、休み時間には、教室を開放して、自由に教室に来てもらうことも考えられる。小学校であれば、休み時間には特別支援学級の児童とともに遊びながら、周囲の友だちを巻き込んで、教師が仲立ちをしながら遊ぶ場面も大切にしたい。

さらに、全校の保護者に向けた発信も大切にしたい。ここでも在籍している子どもたちや保護者の意向を確認した上で、作品を掲示したり通信を発行したりしながら活動を紹介することが考えられる。学校だよりやPTA新聞などで紹介してもらうことも考えられる。

こうした発信を行っている、周囲の子どもたちから、「どうして〇〇さんは、××なの？」といった疑問が出てくることがある。そうした素直な質問に対して、発達段階に応じた適切な説明ができるように、特別支援学級の担任は回答を幾つか用意しておきたい。もちろん、保護者にも相談した上で、本人の得意な面・よさを十分に説明して、何が苦手で、どんな支援をしてもらえればうれしいのかを分かりやすく話すようにしたい。

イ 通常の学級での学習を進めるに当たって

特別支援学級に在籍する児童であっても、通常の学級で日常的に学習活動に参加する場面は多い。一般的には、朝の会や帰りの会、給食、音楽や体育等の教科学習など、個々の実態に応じて通常の学級での学習活動に参加する場面を決め出している。その場合に、通常の学級での学習で、何をねらい、どのような手だてをもって支援していくのか共通理解しておく必要がある。年度当初には細かな打ち合わせを行うことが多いが、学習が進んできた時点での見直し・修正が特に大切である。この時間は通常の学級にお任せ、専科の先生にお任せ、ではなく、共に考える時間を確保していきたい。時には特別支援学級担任や支援員が通常の学級の学習に付き添いながら課題や手だてを確認し、担任間での検討の時間を確保したい。

正式な担任者会を学期に1回程度は位置付けておくことも大切であるが、立ち話や連絡メモ等で日常的に情報を交換していくことが大切である。

ウ 職員間の共通理解と教育課程上の位置付け

交流及び共同学習を実施していくに当たっては、年度当初にその意義を確認しあっておくことが必要である。特別支援学級の児童生徒にとっては社会性を学ぶ重要な学習場面であると同時に、通常の学級の児童生徒にとっても豊かな人間性を育み、主体的に問題を解決していこうとする態度を養う重要な学習であることを確認したい。その上で、教育課程上の位置付けを明確にした年間計画を作成していきたい。例えば、「〇組では、総合的な

学習の時間に位置付けて○時間程度の単元を設定して、交流及び共同学習を行いましょう」といった事柄を確認しておきたい。

② 計画上の留意点

ア 無理なく見通しのもてる年間計画の作成する

年度当初に、交流及び共同学習を実施する時期や時間数などについて、大まかな計画を位置付けておくようにしたい。その際に、あまりたくさんの計画は入れずに、無理なく、継続的に実施できるようにしておくことが大切である。総合的な学習の時間や学級活動の時間に位置付けた学習が難しい場合には、朝の時間や給食の時間などの効果的な利用も検討し、お互いにとって負担の少ない方法を考えていきたい。また、児童生徒が興味をもちやすい体験的な活動を取り入れ、活動への見通しがもてるようにしていきたい。

イ 個々の実態把握に基づいて、ねらいを明確にする

交流及び共同学習を実施するに当たっては、それぞれの子どもたちの実態をとらえておくことが必要である。特別支援学級の子どもにとっては、興味関心に応じた内容で、本人のよさが発揮できそうな活動時間の長さや集団の大きさなどに配慮していくことが必要である。通常の学級の子どもたちにとっては、これまでの触れ合いの経験や理解の程度、学級集団としての雰囲気などを考慮しながら、どのような活動が望ましいかを検討していくことが必要である。その上で、交流及び共同学習を通して、お互いに何をねらうのかについて共通理解していきたい。

ウ 打ち合わせの時間を確保する

実際に交流及び共同学習を推進していくに当たっては、短時間でも、職員間での打ち合わせの時間を確保しておくようにしたい。活動を行うに当たっての配慮事項については十分に打ち合わせをし、どこまで子どもたちに任せるのか、どこは職員がきちんと説明して指導すべきなのかを明確にしておきたい。また、活動が終わった段階では、子どもたちの姿を語り合いながら、個々のねらいが達成できていたのかを確認したい。

③ 特別支援学校との連絡・調整

今後、小中学校においては、特別支援学校の児童生徒との交流及び共同学習の取り組みが広がってくると思われる。受け入れる学校としては、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターも協力して、事前・事後の指導を充実させたい。また、自校の通学区域に在住している特別支援学校籍の児童生徒がいる場合には、年度当初に共通理解し、行事等の案内を確実に届けることができる体制を整えておきたい。

(2) 交流及び共同学習の指導の実例

小学校知的障害特別支援学級に在籍するナツコさんが日常的に交流している通常の学級は、4年生になりクラス替えがあった。新しいクラスはこれまで同じクラスだった児童を中心に積極的にナツコさんにかかわっている友だちもいる反面、どうかかわっていいのかわからずに困っていたり無関心であったりする児童も多かった。学級担任はナツコさんへの理解を深めるとともに、お互いのことを理解し合い、協力し合える学級づくりをしていきたいと願い、また、特別支援学級担任もナツコさんの社会性を伸ばすために、通常の学級の集団の中でも自己表現ができる場面を増やしたいと考えた。そこで、日常の交流場面を見直すとともに、意図的に多くのかかわりが期待できるお店づくりの活動に取り組んだ。

① 日常の交流場面の見直しから

これまでの交流の経過

2年生で転入してから、朝の会、音楽、体育を中心に交流してきた。ごく自然な交流を大切にし、理解は深まりつつあった。その結果、ナツコさんのペースを尊重して見守りながら言葉を聞き出すようなかかわりができる児童の姿も見られた。ただ、その日の体調によっては参加できる内容が限られてしまうので、体育などはすべての活動に誘うのではなく、周囲の児童が待つ時間が長くなってしまわないよう配慮しながら、柔軟に対応してきた。

学級替えがあり、半数は直接交流を経験していない児童になった。

4年2組の実態

明るく元気に活動に参加できる児童が多い。男子は発言力が強い児童の影響を受けやすく、女子は集団行動を好み、目立つことを避ける児童が多い傾向がある。

ナツコさんの実態

保育所時代から一緒に過ごした経験のある児童がいるが、特に親しい児童はいない。明るく元気だが、その日の体調や気分によって、進んで学習に参加できない時もある。

1学期の取り組み

＜日常の交流及び共同学習の場面での工夫＞

- ・ 朝の会・・・毎日教師や支援員と参加し、サイコロトークなどは教師と一緒に発表する。
- ・ 体育・・・あいさつから準備体操は一緒に活動し、後半は個に応じた内容で学習する。
- ・ 音楽・・・歌は好きなので、教師が付き添いながらすべて一緒に学習する。

＜1学期は試しの活動・醸成期間＞

- ・ なるべくたくさん友だちが近くになるように席替えの配慮をする。
- ・ 4月は新しい学級に慣れるため給食と一緒に食べる。5月以降、ナツコさんはあさがお組（特別支援学級）で食べる。
- ・ ウサギ当番は一緒に行う。社会見学も職員が付き添い、一緒に参加する。
- ・ 2時間、学級活動の時間を特設し、ジャム作りの活動場面を一緒に行う。

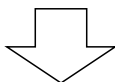
成果と課題

一緒に活動する時には、近くで声をかけてくれる児童がおり、休み時間や登下校の時に声をかけてくれる児童も少しずつ増えてきているが、まだ、どうかかわっていいのかとまどっている児童も多いように思われる（特に初めて同じクラスになった児童や男子にその傾向が強い）。また、支援員が付き添う時間が増えたことで、子どもたち同士のかかわりの場が減ってしまった部分もあるかもしれない。

そこで、4年2組の児童の意識を調査したところ、以下のような児童の姿が見られた。

- ・ ナツコさんのこと（好きな事・得意な事・苦手な事等）を理解していない児童が多い。
- ・ これまで一緒に触れ合う経験の多い女子にはかなり細かく知っている児童もいる。
- ・ 特別支援学級担任が話したナツコさんの苦手さを書いた児童もいるが内容は少ない。
- ・ 一部の男子には、交流に対して消極的な姿も見られる。

今後、運動会や音楽会に向けた交流及び共同学習が多くなるが、ナツコさんがみんなの行動のペースから遅れてしまう場面も予想される。実際に、ナツコさんがどこに行けばよいのか困っていても、どう声をかけていいのかとまどっている児童が多いのが現状である。



活動計画の見直し・修正

- ・ 日常的に実施できそうな交流場면을増やし、意図的にかかわる場を設ける。
- ・ 特別支援学級から、ナツコさんのよさについて積極的に発信する機会を定期的に設ける。
- ・ 特別な単元を設定して、一緒に触れ合ったり友だちの姿からかわり方を考えたりする機会を計画的に設け、楽しく活動することを通して、理解が深まるようにしていく。

日常の交流場面の見直し

- ・ 音楽・体育の授業の時には、当番の児童が特別支援学級（以下あさがお組）に呼びに行き、授業後も職員が付き添わずにあさがお組まで送っていく。
- ・ 連絡係の児童を中心に朝の会や帰りの会など必要に応じてあさがお組に連絡に行くことを多くする。
- ・ あさがお組の清掃に1週間交代で2名ずつの児童が加わるようにして、一緒に作業ができる場면을増やす。
- ・ ナツコさんが4年2組の児童の名前が完全に覚えられるように、全員の写真を用意し、あさがお組で今日の当番の児童は誰だったかなど写真カードにより確認する時間を設ける。

特別支援学級からの発信

- ・ 特別支援学級担任が、4年2組で「ナツコさんのこと、あさがお組（特別支援学級）のこと」を話す時間を設ける。
- ・ あさがお組の活動についてより詳しい解説をつけて廊下に掲示し、4年2組の協力も併せて紹介していく。
- ・ 職員がナツコさんに付き添える時は、あさがお組でのナツコさんの姿をたくさん話す。

② 年間計画の立案・見直し

交流及び共同学習年間計画（4年2組との交流）

6月 「あさがお組のいちご畑で一緒に収穫しよう」（1時間：学級活動）

ジャム作りを体験しよう（1時間：学級活動）

いちごの収穫が忙しい時期に楽しい収穫体験をすることで、交流及び共同学習への期待を持てるようにしたい。また、あさがお組の教室で学習することによって、掲示物を通して活動の内容を知ってもらえるようにしたい。

10月 「あさがお組のバザーに向けて、一緒に準備しよう」（4時間：学級活動）（本単元）

2月 「クッキー作りを体験しよう」（2時間：学級活動）」

1年間のまとめとして、普段はバザー用に作っているクッキーをみんなで作って食べ、今年度を振り返る機会としたい。

※活動は、あさがお組の低学年の児童が下校した後の6時間目に行う。

③ 実態の把握とねらいの明確化

単元の学習を始めるにあたって、4年2組の児童のナツコさんとかかわりの実態をとらえるために、簡単なアンケートを実施した。その結果と日常の姿から、児童のかかわりのレベルを以下の4段階に分けてみた。

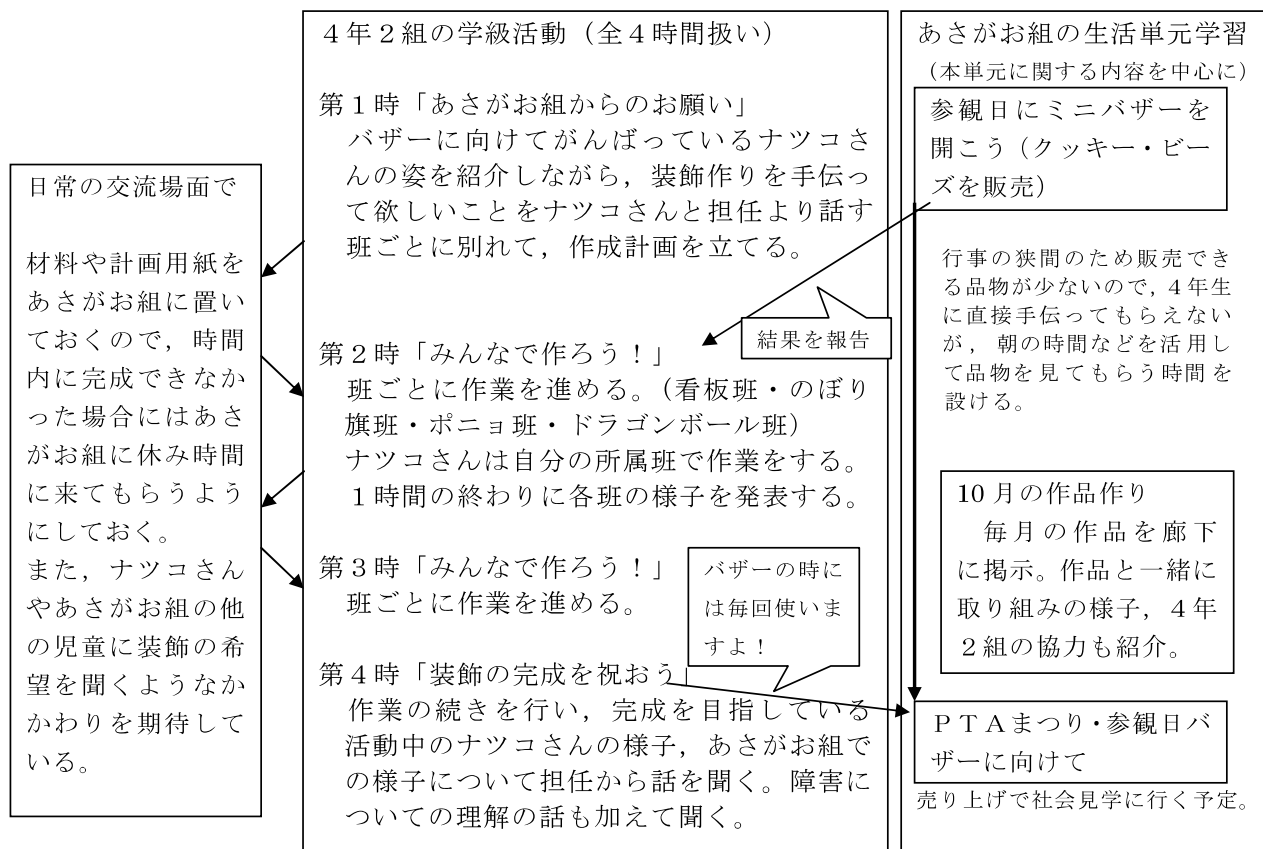
- 1 段階・・同じ仲間として話したり注意したりすることができる。同じ感覚で楽しめる。ナツコさんの気持ちを考えながらかかわり方を工夫することができる。
- 2 段階・・一緒にかかわることはできるが、何かをしてあげているという意識が見られ、ナツコさんの気持ちに十分寄り添うまでに至っていない。
- 3 段階・・気になって何かしてあげたいと思うが、どうしていいのかわからない。そのため、あまり積極的にかかわることができていない。
- 4 段階・・ナツコさんのことについてあまり知らない、関心がない、よくわからないのでほとんどかかわることができない。

この結果をもとに、様々な段階の児童が混ざるようにグループ編成を工夫し、これまでかかわりが少なかった児童も、友だちのかかわりを見ながら主体的にかかわり方を工夫していくことができることを願った。

この際、数時間の学習でレベルが変わっていく児童もいるかもしれないが、なかなか変わらない児童もいると思われる。今回の単元だけで段階が変わっていくことをめざすのではなく、ナツコさんのこと、ナツコさんとかかわる友だちの姿を知ってもらうことを大切にしていきたい。

④ 学習指導案

- 1 単元名 「あさがお組バザーに向けて、一緒に準備しよう」(学級活動)
- 2 単元展開の概要



3 単元の目標

<4年2組>

あさがお組バザーで使用する看板やのぼりなどの制作にナツコさんと一緒に、班ごとに話し合っ工夫しながら取り組む活動を通して、あさがお組のこと、ナツコさんのことを理解し、ナツコさんと自分がどのようにかかわっていけばよいのかを考えることができる。また、ナツコさんとのかかわりに限らず、クラスの友だちとお互いに助け合い・支え合うことの大切さについて考えることができる。

<ナツコさん>

教師と一緒にあさがお組の活動を紹介して、4年2組の友だちと一緒に楽しくバザーに向けた装飾を制作することを通して、作業する友だちに自分から声をかけたり道具を手渡ししたりしながら意志を伝え、自分の分担の作業に最後まで取り組むことができる。

単元の学習を進めるに当たって（支援の仮説）

- ①教師がナツコさんのすぐ隣で作業をして直接声がけするのではなく、始めは少し離れた場所で見守るようにする。ナツコさんが戸惑っている時に4年2組の児童が対応に困ってしまう場面も予想されるがそれも大切に見守る。どう対応してよいのか困った場面では、かかわりが深い児童の話を聞いたりかかわり方を紹介したりすることで、自分のかかわり方を考えるよう促す。
- ②毎時間の学習活動の中で、ナツコさんの気持ちやあさがお組での発言を特別支援学級担任が説明する時間を確保する。その中でかかわりのよさを意味付けする場面を大切にしている。
- ③今回の単元では全員が同じように、ナツコさんと直接かかわる時間を設けるのではなく、ある程度じっくりとかかわれる時間を確保する。その際、ナツコさんとのかかわりがいろいろな段階の児童でグループが編成できるように配慮し、かかわりが少なかった児童もかかわりが深い児童の姿を参考にできるようにする。今回、かかわれる時間が少なかった児童には、別の場面（体育や音楽のグループでの活動を中心に）でかかわる時間を大切にする。
- ④それぞれのグループで、自分たちの発想を生かし、得意な活動に取り組みながら楽しむ時間を大切にしていけることで、今後も継続して交流及び共同学習をしていきたいといった期待が持てるようにしていく。



ポニョの張り子をみんなで制作中



できあがったお店で販売！

4 本時の指導計画（本時案）

（1）主 眼

＜4年2組＞（学級活動）

「ナツコさんと一緒にあさがお組バザーに向けた装飾を作ろう」と目当てを持ち、グループごとに計画を立て作業を進めてきた子どもたちが、ナツコさんと一緒に制作を進め、判断が必要な場面ではナツコさんに質問したり、かかわりの様子を友だちや担任から聞いたりしながら、ナツコさんのがんばっている姿に気づくとともに、協力して作業に取り組むことができる。

＜ナツコさん＞（生活単元学習）

4年2組の友だちと一緒に装飾作りに取り組み始め、友だちとの会話が少しずつ増えてきた本児が、一緒に作業をする友だちにのりづけした紙を手渡したり声をかけたりしてかわりながら、最後まで作業に取り組むことができる。

（2）本時の位置

4時間中の第3時

（3）指導上の留意点

- ・普段とは違う教室での授業になるので、授業開始前にはナツコさんに予定を丁寧に伝え、教師と会話をしながら過ごす時間を設けて、教室の雰囲気に慣れるようにする。
- ・はさみやカッターの使用に当たっては、教師が近くに付き添って、安全に十分留意する。
- ・授業が始まるまではあさがお組担任がナツコさんに付き添うが、授業が始まりグループで作業をしている時には、子ども同士のかかわりを大切にして離れて見守るようにする。ただナツコさんへ友だちが質問に来た時には担任が近くで一緒に聞いて、会話をつなぐようにする。←支援の仮説①③（前ページ参照）

（4）展 開

T 1：4年2組担任

T 2：特別支援学級（あさがお組）担任

段階	学習活動	予想される児童の反応（○）支援（△） （4年2組）	予想されるナツコの反応（○）・支援（△）	時間
導入	本時の作業予定を確認する ＜T 1＞ 本時までのあさがお組での活動（特にナツコさん）について話を聞く＜T 2＞ 色や絵の判断をナツコさんに聞く事を確認する＜T 1＞	○ 今日のはりきって作るぞ！ ○ できあがってきた装飾を喜んでくれているかな？ ○ 完成めざしてがんばろう！ △前時に、ナツコさんにわかりやすいような聞き方をしていた児童の姿を具体的に紹介する。	○担任と一緒にならば、聞かれたことに簡単な言葉で感想を話せるかもしれない。 △教師がインタビューするようにしてナツコさんの答えを促す。	5分
展開	グループごと作業を進める ①ポニョグループ ナツコさんは、張り子のポニョに障子紙を貼っていく作業と一緒にかわっていく予定 ＜T 2 担当＞	○グループの中で、紙をちぎる役割、糊付けして貼る役割などを決めて取り組む。ナツコさんに「何をやりたい？」「どこに貼る？」などと尋ねて会話をすることができるかもしれない。 ○糊付けしていく時に、「はいよ」「ありがとう」などと自然な会話ができるかもしれない。 △これまでかかわりが少なかった児童がナツコさんの隣に座るように助言する。←支援の仮説①	○友だちとの相談では、はっきりと答えられないかもしれない。自分のペースで作業を進めてしまうかもしれない。 △作業中はなるべく見守るが、友だちが何度か声をかけても作業から離れられない場合は、教師が間に入ってかわる場面を作る。 ←支援の仮説①	30分

	②ドラゴンボールグループ 立体的なボールを貼って色づけしていくメンバーとキャラクターの絵を描くメンバーに分かれて作業を進める < T 2 担当 > ③看板グループ 看板に色を塗ったり文字をつけたり装飾をしたりする分担に分かれて作業を進める < T 1 担当 > ④のぼり旗グループ 飾りを作り、文字を貼って仕上げていく < T 1 担当 >	△ボールを作る作業はナツコさんらのはりこと近い場所で作業を行い、お互いの様子が見えるようにする。 △絵の細部にこだわっていた場合、大きさを比較するよう助言し、ナツコさんらのグループに目を向けるようにする。 ○グループごとに相談しながら、楽しく作業を進めていくことができるだろう。 △色を決めたり新しい絵を加えたりする場面では、作品を持って行ってナツコさんに確認するように声をかける。一人では聞きにくそうな場合には、ペアで行くようにする。 △児童のいいアイデアを認める場面を大切にしていく。 ←支援の仮説④	○友だちから判断を求められた時には進んで答えられない事柄があるかもしれない。 △ナツコさんが答えることが難しそうな場合は、担任がナツコさんにわかりやすい言葉で質問して答えを促す。あるいは担任が答えを予想して選択肢を設け、ナツコさんが最終的に判断できるようにする。 △作業の後半で疲れてきてしまった場合には、他の班の作業を見る等、教師と一緒に動く場面を作る。	
まとめ	各班の作業の進行状況を報告し合うとともに、ナツコさんとかかわって作業をした感想を聞く < T 1 担当 > ナツコさんの感想を聞く。また、本時に見られたナツコさんとかかわりのよい姿を紹介する < T 2 担当 >	○それぞれの作品を進んで紹介してくれるだろう。 △丸くなって座り、お互いの様子が見えるようにする。 △ナツコさんに思いを寄せたかかわりの姿を具体的に紹介する。また、ナツコさんが力を発揮できている背景に雰囲気のよさがあることも伝えていく。←支援の仮説②	○最後には教師と一緒に簡単な言葉で感想を言うことができるかもしれない。 △ナツコさんの様子をみながら言葉で話すことが難しそうなら、班の児童にナツコさんの様子を聞き教師が後付けする。 ←支援の仮説②	10分

⑤ 成果と課題

今回の制作活動は、4年生もナツコさんもたいへん意欲的に取り組み、十分に楽しむことができていた。どの子も自分の得意分野を生かして活躍できる場面があり、それが形になっていくことが楽しかったようである。授業が終わった後も、4年生があさがお組の教室に来て、楽しそうに会話をしている場面がみられ、ナツコさんも会話が長く続くようになってきた。また、朝や帰りに廊下ですれ違った時などに、元気にあいさつをする場面も増えてきた。交流及び共同学習を推進していくきっかけとしては、よいかかわりができた。

その後のあさがお組のバザーでは、この装飾が大活躍し、たくさんの売り上げがあった。4年生は実際の販売場面を見ることができなかったため、バザーの様子を模造紙に写真入りでまとめ、4年2組の教室に飾って、ナツコさんと担任で報告した。

またその後、2組の子どもたちは、「ナツコさんは疲れているの？ちょっと元気がなさそうだったけど」等、行動の様子から気持ちを察する言葉がけをする場面が見られるようになった。これは、教師がナツコさんの気持ちを代弁していったことや、友だちのよいかかわりのモデルを具体的に示しながら毎時間のまとめの段階で紹介していったことによるものと思われる。お互いをつなぎ、理解を進めるためには、教師の役割は大きい。

今後も、定期的に活動を継続し、児童一人一人が主体的にかかわり、助け合いながら生きる社会の一員としての自覚を育んでいきたい。